銀河戦国群雄伝 4

ライ

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

この本は92年3月に角川書店から発行された本の新装版です。

DE

EX

銀河戦国群雄伝ライ 4

真鍋譲治

DE-5-6
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

9784073004172

1910379009506

ISBN4-07-300417-4

C0379 P950E

発売●主婦の友社　発行●メディアワークス　定価950円(本体922円)

DENGEKI COMICS EX

- フォーチュン・クエスト ①②　迎　夏生 COMIC / 深沢美潮 STORY
- エンジェルアーム ①②　衣谷　遊
- ダンジョン・マスター　栗橋伸祐
- 電撃摩陀羅海賊本 ①　田島昭宇 原作 with MADARA PROJECT
- 銀河戦国群雄伝ライ ①②③④⑦⑧　真鍋譲治
- イース ⑤　羽衣　翔
- MADARA赤 LASA ①　田島昭宇
- MADARA壱 ①②　田島昭宇
- 電撃丸 (コミックアンソロジー) ①　衣谷 遊・夢来鳥ねむ・MEIMU他
- KISS　MEIMU・今関あきよし・大嶋拓 COMIC STORY WORDS

DENGEKI COMICS

- ローンナイト2 ①②　吉富昭仁
- ヤンキーTURBO －最後の爆走－　山本よしふみ
- トライアルかおる! ①　山本よしふみ
- サボテンロード (上)(下)　迎　夏生
- 爆れつハンター ①　臣士れい 作画 / あかほりさとる 原作

月刊電撃コミック GAO ガオ
アクティブ ヒーローコミック
毎月27日発売

銀河戦国群雄伝ライ

4

真鍋譲治

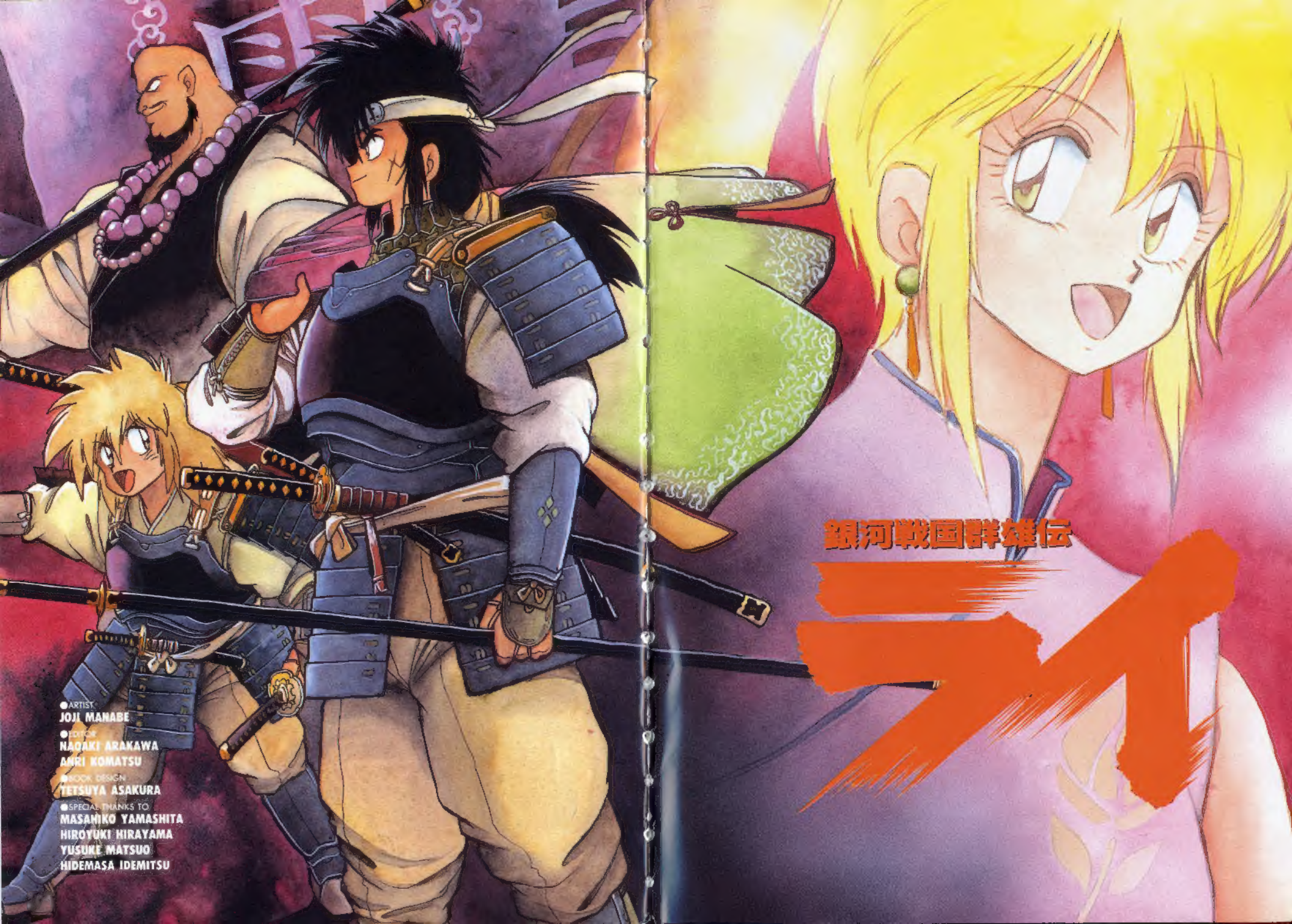
DE-5-6
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

DengekiComics

RAI

BY JOJI MANABE

4



●ARTIST
JOJI MANABE
●EDITOR
NAOAKI ARAKAWA
AKRI KOMATSU
●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA
●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
HIROYUKI HIRAYAMA
YUSUKE MATSUO
HIDEMASA IDEMITSU

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜てきされ五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。新任師団長として最初は部下の掌握に苦労するが副将孟閻の協力や、その指揮ぶりにより部下の不信感も薄らいでいき、南天軍の前線を突破するや大暴れして要衝座王都に一番乗りを果たす。若さの余り降伏した捕虜の暴言に腹を立てて三千人を撫で斬りするという愚を犯すがその勇名は敵味方に響きわたる。しかしその後正宗の罠にはまり、座王都で第3軍共々、孤立するが包囲網を噛み破るため自ら殿軍を引受け大損害を被りながらもその場に留まり、味方の退却を援護。最強師団の意地を見せる。燃料も枯渇し万事休すとなるが乱戦の中、正宗の本隊と遭遇、白兵戦を挑み後一歩まで追いつめるが重症を負い辛うじて狼刃に助けられる。だが雷の闘志には敗北感、挫折感は無い。やがて新たな戦いを挑むことになる。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られるが、自らを恩賞として南征での一番手柄の男の元に嫁ぐと公言する。まるで一番手柄が誰になるか知っていたかのように…その内には父の夢である帝室再興に懸ける熱い血が脈々と流れている。

【羅羅】れいら

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、ちょっかいを出し紫紋とよく対立する。彼女の考えでは五丈のいい男は全て自分の物らしい。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に仕える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、時に暴走する雷を諫める役に回ることもある。もっともさじを投げ

る時もあるが…。

【太助】たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。元は一百姓のせがれであったが、家庭を助けるために行商をし、町で幅をきかせていた不良少年の雷と出会い共に軍に志願する。その小さな体に似合わず、その後、雲海と共に各戦場を転戦する。

【孟閣】もうかく

4077師団の副団長。冷静で勇猛な豪将であり経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者でもあるが臆病風に吹かれた上官を殺すなど厳しい面も持つ。雷に対しても最初は不信感を抱いていたが、やがて雷が将としての器であると見て自分の主として雷を認め、その覇業に重きをなす。

【比紀弾正】ひきだんじょう

元神聖銀河帝国左将軍。帝国崩壊後兵を挙げ、たちまちのうちに北天を制圧、その強大なカリスマ性によって配下に多くの勇将を抱えることになる。天下統一のために南天攻略に向かうが正宗の策略と、用兵のまずさによって目的を達することが出来ず五丈に雪崩をうって退却する。位人臣を極めた弾正であったが老いによる衰えが忍び寄っていた。

【狼刃】ろうは

五丈四天王の一人、知勇を兼ね備えた女将であり、雷の才能を早くから見抜き、その行く末を暖かくかつ厳しく見守る。女傑正宗に刺激され南天侵攻の先鋒を買って出て雷にその先陣を任し麾下の第三軍を率いて南天に雪崩込み、守将羅鶴を斬る。勇戦奮闘するが補給が途絶え正宗に包囲され大損害を被る。戦後その責任を問われ処罰されそうになるが玄偉の諫言によって降格処分ですむ。上官を何とも思っていない雷も彼女だけには頭が上がらない。

【骸羅】がいら

五丈四天王の一人。身の丈2m以上の体格と怪力の持ち主。狼刃と共に弾正の旗

揚げからの宿将。一騎当千の武将で各地を転戦、弾正の覇業におおいに貢献するがその割には報われていないと本人は思っている。南征においても狼刃の後詰めを命じられ大いに憤慨、勝手に進撃し狼刃の軍と対立する。その後の退却戦でしぶしぶ雷に援軍を出し殿軍を助ける。

【玄偉】げんい

五丈四天王の一人で辣腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが早くに帝国の再興に見切りを付け弾正側に寝返る。彼が抜けたことによって旧帝国側はたちまち戦意を失い弾正に降ることになり、玄偉はその功により弾正に重く用いられ南征には五丈軍本隊として進撃し弾正に南天からの早期撤退を勧める。その才覚故に他の将軍達とあまりうまくいっていない。実際、弾正の死後を見透かし配下の華玉と共に権力の簒奪を企んでいる気配がある。

【鳳鳴】ほうめい

五丈四天王の筆頭将軍。序列上では弾正に次ぐナンバー2の地位にある。冷酷な性格で五丈軍の多くの将兵を管理している。玄偉の台頭を恐れ警戒し狼刃、羅刹を誘い玄偉失脚を狙うが未だ果たせずにいる。

【独眼竜正宗】どくがんりゅうまさむね

父先代正宗の死後弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらその戦略、行動力で弾正に対抗できる数少ない人物。五カ国からなる南天連合の総大将であり、五丈武王都に奇襲を掛け弾正を挑発、彼に南征を急がせる結果を産む。圧倒的な弾正軍に対して策略を用い各個撃破して行く。その後南天の三国を制圧し練の羅候にも服従を強いる。

【虎丸】とらまる

正宗の弟だが幼いので国政には関与していない。姉譲りの闘志の持ち主で勝手に艦に乗り込み雷に一刀を浴びせたりする。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近で、智恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり犬馬の労を惜しまない。弾正の南征においても的確に正宗を補佐し、殿軍を務める雷の猛攻より正宗を守り抜く。

【羅候】らこう

練国国王。父羅鶴の死後、兵権を受け継ぐ。敵である狼刃を付け狙い守ろうとする雷と一騎討ちを繰り広げ、戦後、正宗の服従の命を受け激怒するが、時我にあらずと考え南帝閣に赴く。後に雷と共に竜虎と並び称される。

【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張道師の高弟でその秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため、暗躍する。その行く手を遮る者を闇から闇へ葬り去るのも彼女の役目であり後に雷の追い落しをも画策する。

【李張】りちょう

弾正の元軍師。弾正の挙兵と同時に弾正に軍師として迎えられその覇業に大いに貢献。引退して隠居生活をしている今も五丈軍に対して隠然たる力を持つ。華玉、蘭々の師匠でもある。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張の元で学ぶ。道士としての能力は未知数だが今は紫紋の元で身の回りの世話をしている。荒れくれ者の印象がある雷の元に嫁ぐ紫紋の身を案じて雷には容赦ない。

【三条】さんじょう

元帝国左大臣。帝国末期から同じ臣下の弾正を警戒。帝国崩壊後は旧帝国派の中心人物となり弾正を倒して帝室復活を画策する。

神聖帝国時代
栄えに栄えた
斉王都も
帝国崩壊後
五丈軍と帝国旧臣との戦いで
今や見る影もなかった
今では
引き残った公家達が
五丈の指で扶持で
かろうじて
その宮廷を守っていた
五丈
旧帝都
斉王都

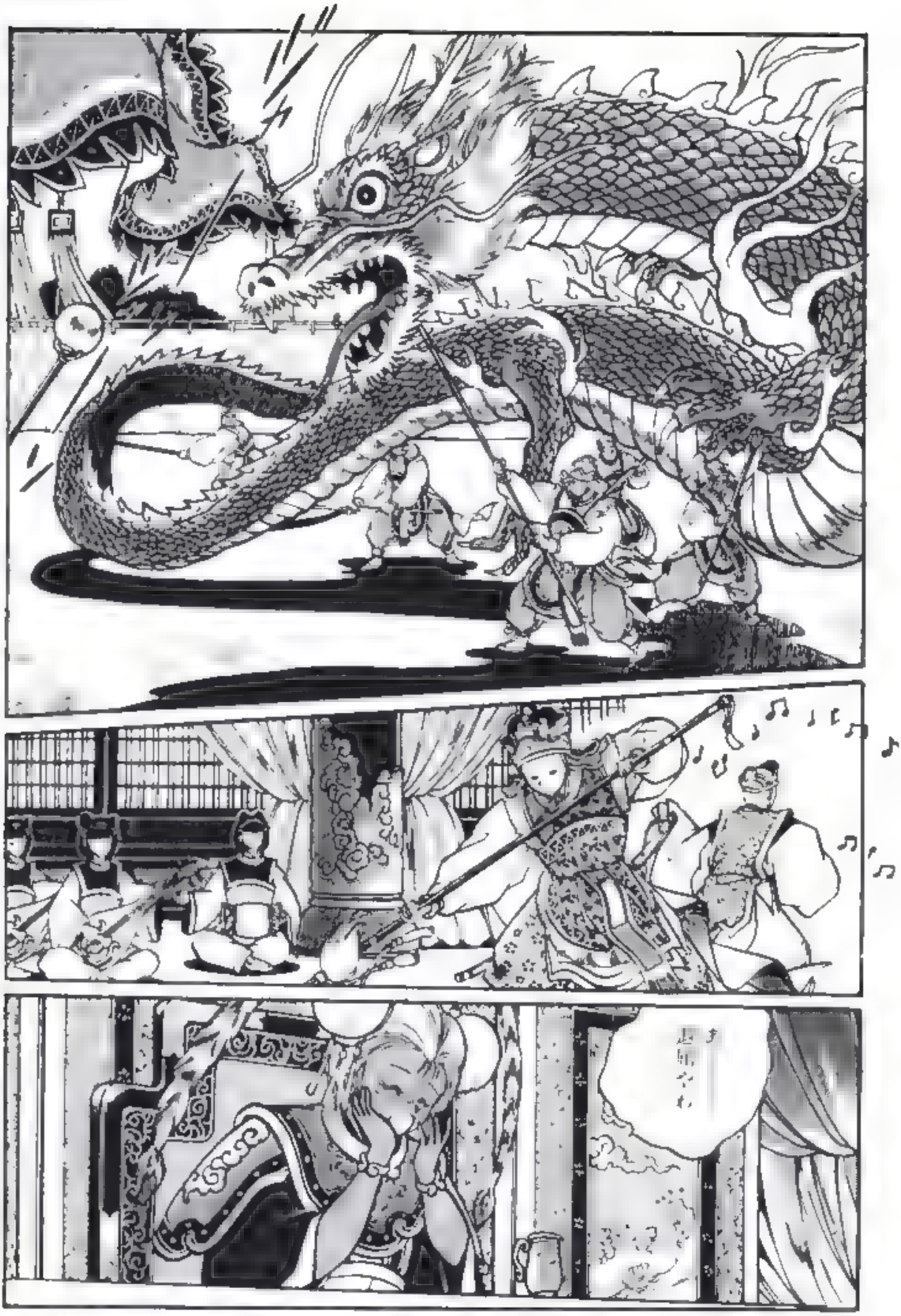
だが彼らとて
弾正の天下取りを
容認しているわけではなかった
日夜
元左大臣一条の
元に集い
弾正打倒
帝国再建の
謀議をこらしていた
とにかく
弾正公は
大きく
なりすぎた
もはや
実権も
金もない
我々には
手に負えん
残念だが
みすみす
指を食わえて
奴の覇業を
ながめて
過ごさねば
ならんとは

朝廷の重臣たるお歴々が立ち言を言うためお集まりか？
三条公！
確かに我々には金も権威もないだが弾正めが手にできない切り札があろう！
切り札？それは一体
天子の詔しゃ///
詔〃しかしそのようなものは
わしらの手で造るのじゃ
げっ〃
そんな恐れ多いことを

確かに
詔を
偽造するなど
恐れ多いことじゃ
だが
今のわしらに
他に
何の手がある
・・・
弾正を
討てという
詔を
亡き帝の御遺言として
正宗に手渡すのじゃ
智の
正宗に？
智の国は
元々住み着いていた
海賊どもに官位を
与えて守らせた国
錦の御旗が
喉から手がでるほど
欲しいはず
なるほど
あの弾正の
侵攻をはね返した
実力者
後は何とでも
丸め込めば
それだけでは
足りぬ！
あと二つの詔を
一つは皇室の
血を引く者
もう一つは
五丈四天王の
一人に・・・

ここ五丈国でも
連日新年を
祝う大宴会が
催された
五丈国 座王都王宮

各国・地方の
国王・諸侯が招かれ
全銀河の名物・珍味が
献上された
それに
貴やされた
貴用と人員は
莫大なる数に
及んだ
それは
比紀弾正と
五丈国の
健在ぶりを
天下にホした



なんや
もう
飽きたて
ほんま
年末かて
ずーっと
これや
スティ。
誘って
狩りにでも
行こーと
これ！
ギッ!!
正月くらい
おとなしく
しとかんか！
フッスゥ!!
！
おい
紫紋は
どないしてん
おらんや
ないか！
はあ
少しお疲れのようで
お部屋の方へ
まいられましたが

はっはっは
見事じゃ
ほうびを
取らせよ！
どこがやぬん〃
うっ〃
カタン
父上・
殿！
いや
少し目まいが
しただけだ
案ずるな・
少し
お休みなされ

ふふ
このくらいの
酒で酔うとは
わしも
年をとった
のう
まだまだ
酒宴は続く
少し休んで
おくか
麗羅
わしの代役として
諸侯よりの祝賀を
うけなさい
え～～～
ブス
酒だ
酒持って
こんかい！
こらっ
なんかやれや！
おもろ
なかったら
首飛ぶで!!

♪
あら
太助じゃない
あ
姫様
雷兄きの
見舞い？
それは？
兄きの飯だよ
兄きったら飯も食べずに
本ばっかし読んでるんだ
まあ
学者顔負けの
読書量ね
それ
ついでだから
あたし渡して
きてあげる
ええっ
姫様にそんなこと
させられないよ

んなこと
したら
兄きに…
わはは
じゃあお願い
しますぜ
ええ
なにすんだよ
雲海!
バカ野郎!
ちったあ気を
きかさんかい!
気をきかすって
兄きと姫様の
こと?
見りゃ
わかるだろ!
姫様 雷の奴に
ほれてんだぜ
けど
兄きは
そんな素振り
見せないよ
はっ
人前では
みっともねえと
思ってんだろ
とにかく
雷にとっちゃ
生まれて初めての
女だ
これからが
おもしろいぜ

ずいぶん熱心ね雷！
わっ！
なんだ姫さんか！
向こうで飲まないの？お正月なのにみんなやってるわよ

酒は止められてんだよあのガンコじじいにさ
それにこっちの方がおもしろくて
あっ太助の奴姫さんに飯持ってこさせたのか――っ!!
いいのあたしが横取りしちゃったの
はいどうぞ
……
なあ姫さん
気持ちはありがたいけど仮にも一国のお姫様だぜ
何も三度三度の飯盛りまでしてくれなくても
ううん気にしないで姫なんていわれてもそれは昔のこと
国を亡くせばただの女です

弾正公の
情けにすがり
異国の地で
ただ一人
生き恥を
さらしてる
だけよ
ズー…
でも
それだけに
雷達と
こうしてると
気がなごむの
おかわり？
俺あ
あんたの親父さんを
斬ったんだぜ
父は
死に場所を
求めていたわ
戦で倒れる
ことを望んだの
将来ある若者の
手にかかるのは
本望だったと
思うわ
……
そのことは
忘れて…

強えな
姫さんは
う…
わっ!!
ど…
どうしたんだよ
いきなり
ちょっと待てよ
俺がなんか
したみたいじゃ
ねーか

お父様…
つらい
こと
思い出させたか
悪かった
うわあ――ん
な…泣くなよ
わ――っ
こ…こーいう時
どうすりゃ
いいんだよ!!

ウ――イ
え――っ
この穴の中から
3匹のヘビが
出てまいります
では
まず黄色の
ヘビで
ございます
あれ
赤いヘビですね
ん
なになに
人前に出るのは
恥ずかしいので
赤くなった?
はは
おもろない
ボソ…

なんや
ぜんぜんおもろ
ないやないか!!
耳をそげ!
鼻をそげ!
首斬ったれ
——っ!!
ひえ〜〜〜!
どうか
御慈悲を〜〜〜っ!
さっきから
ろくなのが
おらへんや
ないか!
正月らしい
パー——ッと
おもろいのを
やらんかい!
次!!
それでは
正古田名物
かつ丼音頭を
こいつらは
火あぶりや——っ!!
東京都、たら
練馬区〜月

殿 ご気分は
いかがですか？
おう
ずっと
よくなったぞ
実は
智国より
正宗公の名代として
飛竜殿が
年賀の使者として
まいっております
なに
正宗からの
使者？
飛竜といえば
若いが正宗の
側近中の
側近ときくが…
そのような者を
送りこんで
くるとは
何かあるな
よし
会おう
当時は
交戦国同士でも
祝賀のおりには
互いに使者を
送りあっていた

正宗公の名代としてまかりこしました
飛竜と申します以後お見知りおきを
うむ御苦労であった南帝閣は遠い道中さぞや難儀したであろう
その遠さは我が身をもって体験したからな
……
いやいや今は宴席の最中じゃ戦の話はよそう
え――っ正宗公より献上の品の目録をお取り次ぎ申し上げます
うむでは余と共に祝賀の宴席を楽しまれよ

ふ
さすがは
比紀弾正
大巨人である
ことには
間違いない
だが
その
余命
いくばくも
あるまい
ずいぶん
たくさん
本を読んでる
のね
え
まあな
宿題だし
おもしろ
かった?
本は将軍と
孟闔が選んで
くれたけとな
あ——
そういや
こっちの戦記や
兵法書は
おもしろかったぞ

戦の本
ばかりねー
そりゃそーだろ
将軍が本を
読めっていったのは
そーいうことだろ？
ちょっと
違うと思うわ
それ
えっ
将軍は
あなたに
力だけじゃなく
花鳥風月を愛で
詩歌も詠じることも
できる男に
なってほしいと
思ったのよ
ぶっ
なに言ってんだ
今は戦の時世だぞ
そんなもの
クソの役にも
立たねえよ
ドカ
ドカ
将軍は
あなたをただの一将
としてじゃなく
もっと買ってると
思うの
例えば
一国を治める男に
なれるとかね
へ――
一国をね
――
一国を治めるのには
武勇一途では
だめよ
人と交わり
民を愛する心を
持たなきゃ

どうだ 姫さんも 将軍と同じく この俺が そーいう男に なれると 思うか？
どうだ？
ビキ〃
ええ あたしも 信じて
雷——っ!!
おるか—— 一杯やろーで !!
わ——っ 麗羅様 だめ——っ!!

あーっ!!
なんやなんやこれはーっ!!
雷
ちょっと説明せいっ!!
じゃじゃあたしそろそろ帰ります
ああ
イテ
ああじゃあらへん何してんこらあっ!!
紫紋も待たんかーいっ!!

姫さん
え？
きっきのこと
本当に
そう思うか？
ええ

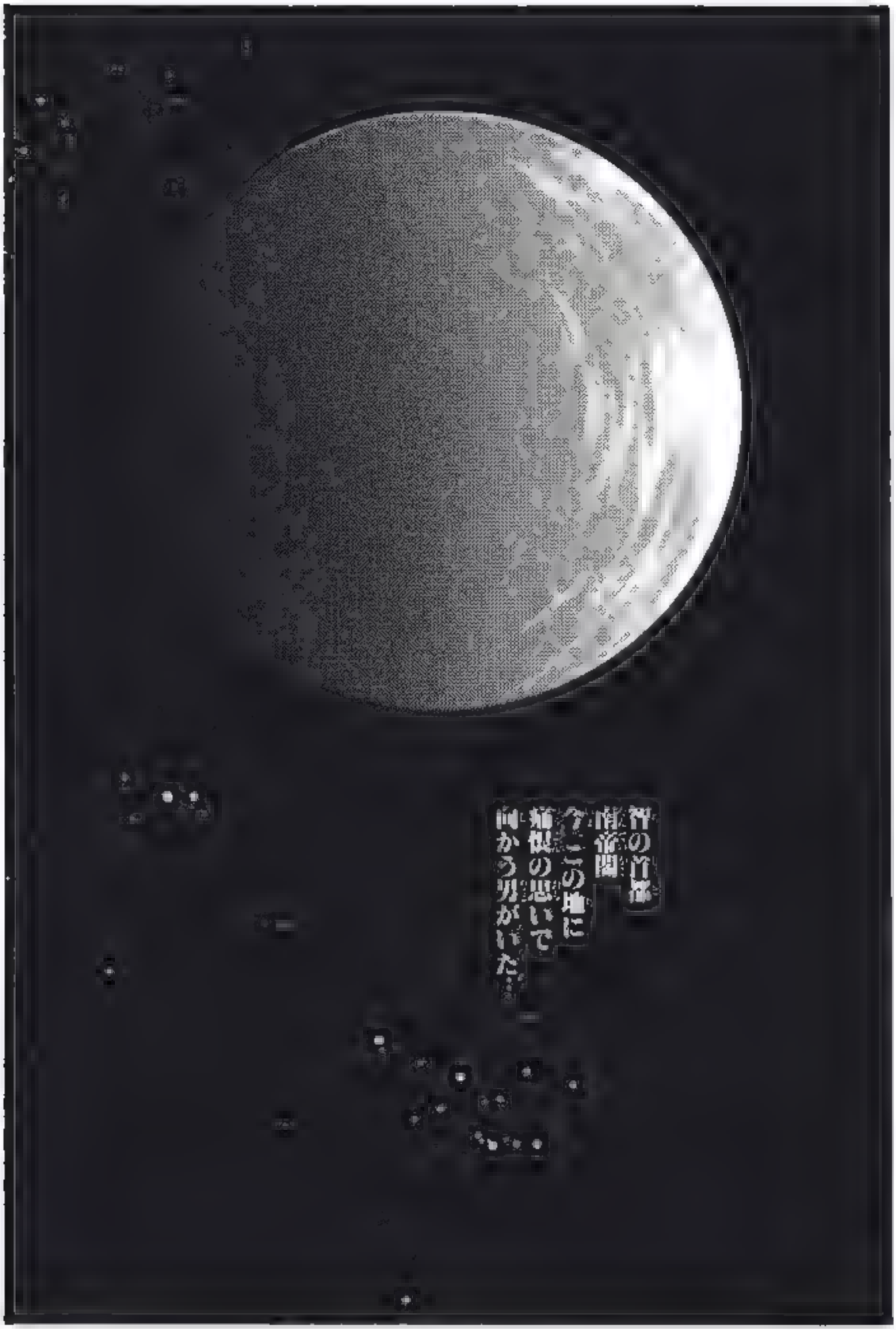
お父様
あたし決めました
都のところに
まいります
彼と共に
お父様の
志を継ぎます

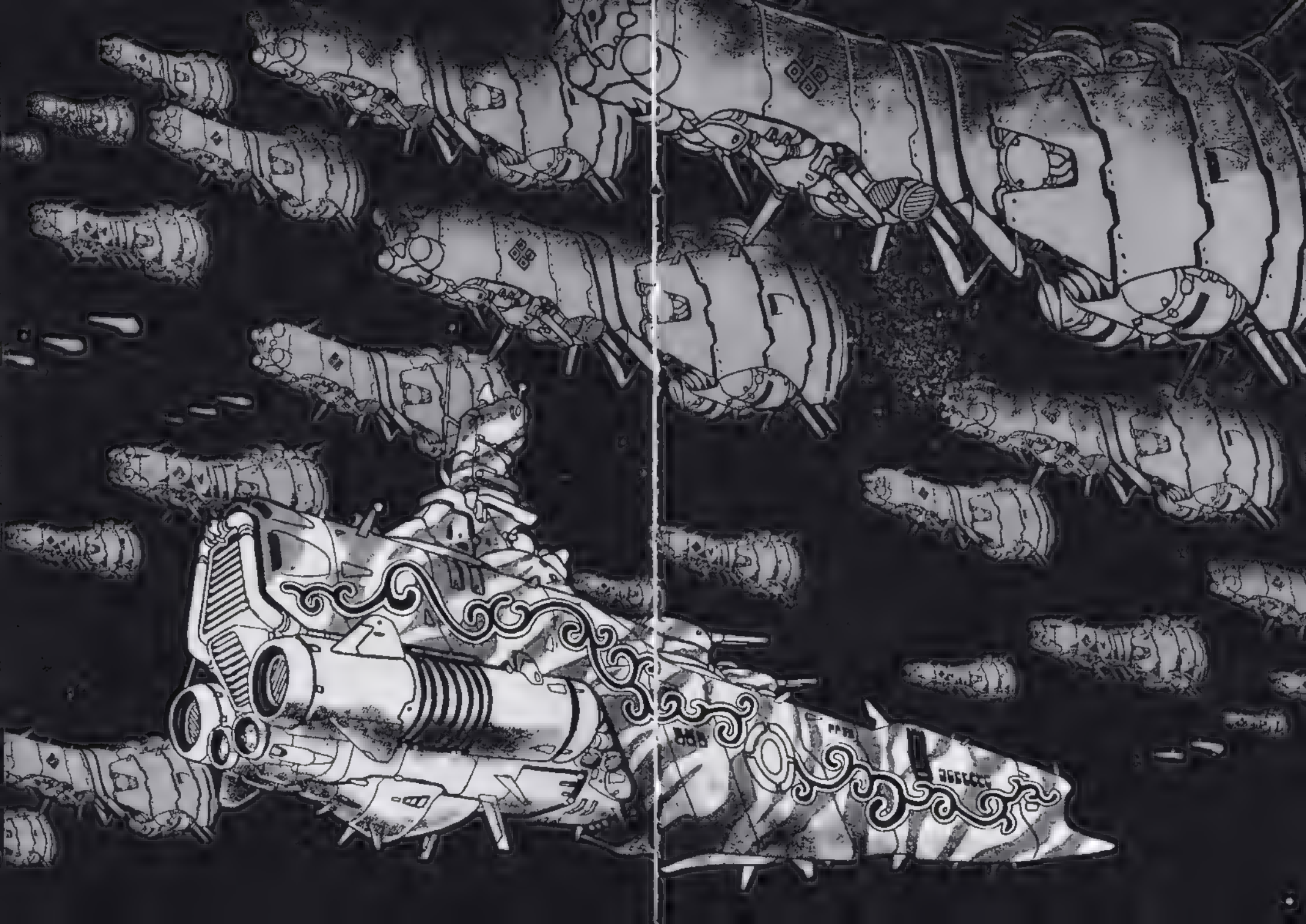
紫紋姫様…
!!
だれ!!
お静かに！
怪しい者では
ありません
智の正宗公の
家臣で
飛竜と申します
正宗公の!?
はっ
お話があります
よくここに
入れましたね
監視されているのに
あの程度の監視
この飛竜にとって
何ら妨げには
なりません

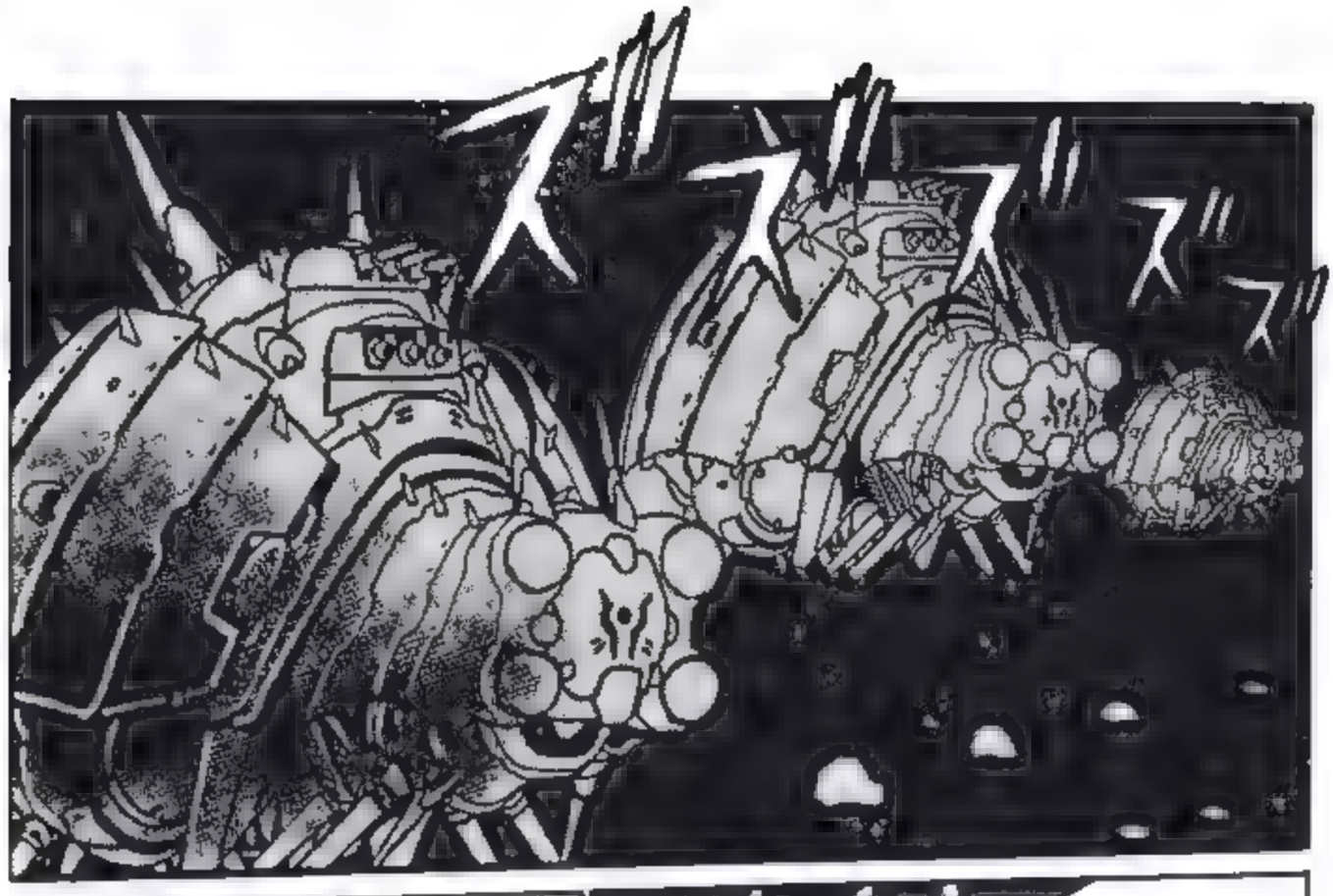
とにかく
中に入って
話を
聞きます
はっ
話というのは
他でも
ありません
神聖帝国復活の
相談でございます
何かと
思ったら…
亡んだものが
どうして復活
できます
まだ亡んだ
わけでは
ございません
あなた様が
います
あたし？
あなたは
皇室の血を引く
ただお一人の身
実は
宮廷の公家から
このような
書状が
まいりまして…

これは…
正宗公に
逆賊弾正公を
討てとの亡き陛下の
御遺言では…!!
いかにも
それは
天下に逆賊が
はびこる時に
開けよと申された
御遺言だったそうです
今や
その時!!
このような
ものが
あったなんて
弾正の配下の将にも
亡き皇帝の御恩篤き者が
数多くいます
今 姫様を擁して
我が主君が兵を起こさば
彼らの内応は確実!
皇室の再興!
これ以上の
戦の大義名分は
ございますまい!!
すでに
戦備を
整えて
おります
また戦なのね…
大義を
正す戦で
ございます!

姫様
それでは…
吉報を
お知らせ
いたします
……
姫様
明けまして
おめでとう
ございます
師匠が
これをって
あれ？
何か人の気配
したのにな――
ううん
誰もいない
わよ
なんや
雷
うちの酒
飲めへん
ちゅうんか！
止められ
てんだよ
医者に！
飲まへんの
やったら
討ち首やで――!!
バカ!!

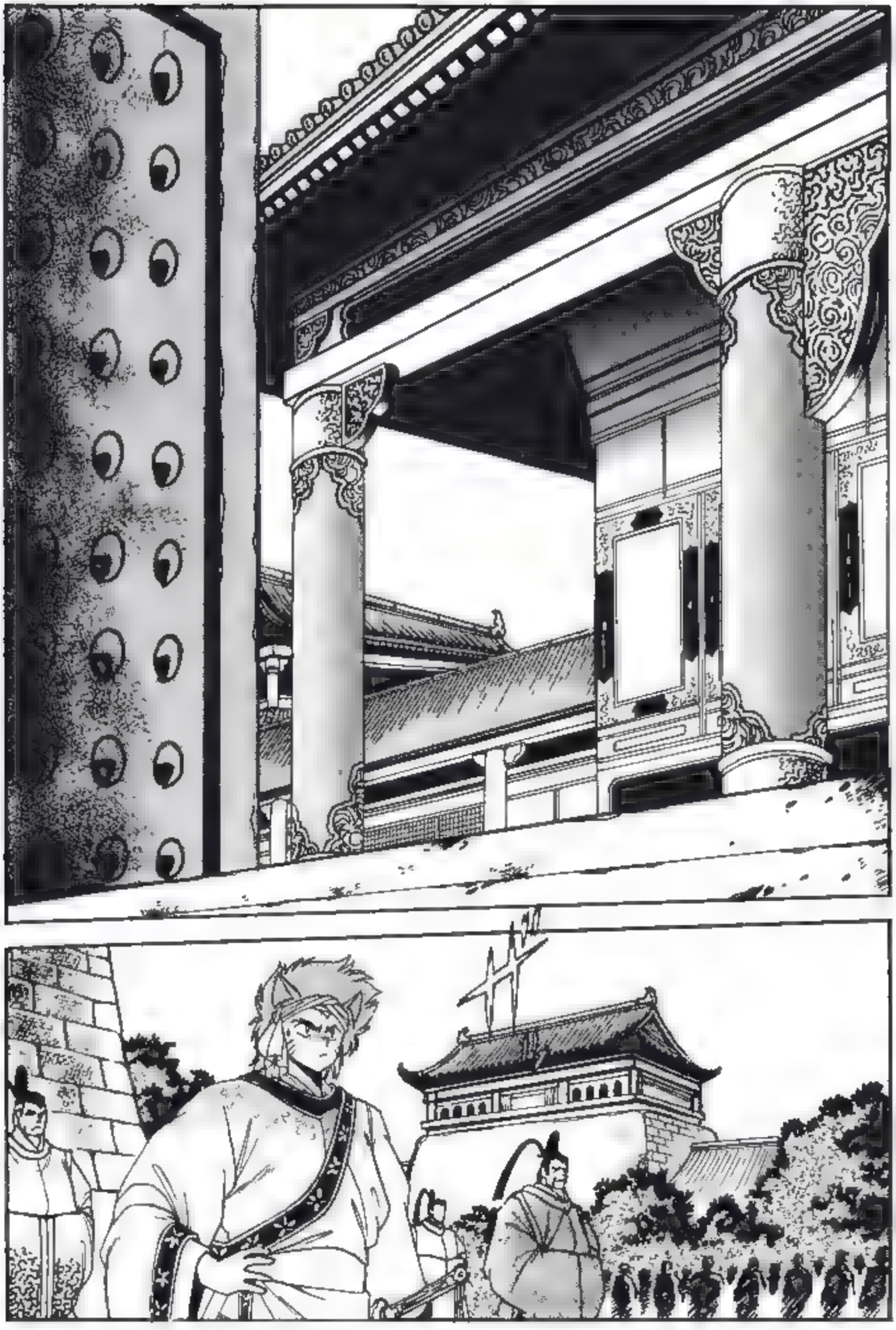

智の首都
南帝陽
ここの地に
痛恨の思いで
向かう男がいた




ズズズズズ

ふん
威勢を張って
この俺を威嚇する
つもりかよ！
どこまで
いまいましい
奴だ！
若君 お腹立ち
ごもっともですが
これを一つの
御教訓となさって
くださりませ
"血気にはやる
勇気なぞ捨て
耐え忍び
時を待つのが
王道でございます
わかってるよ！
おとなしく
しとけば
いいんだろ"

俺はガキじゃねえんだぞ!!
なんでえ城を出た時からずーっとそればっかじゃねーか!
プー
プー
はぁ
しかし若君はお気が短く
うるさい!
俺も一国の主だ!
ゴチャゴチャいうな!!
ふん
正宗と顔合わすのは二度目だが所栓は女じゃねーか!
待ってろ…!
練国武人の心意気ってのを見せてやらあ!!
特大の軍艦旗をかかげろ!!
智の連中に見せてやれ!!



これは
羅候殿
遠路はるばる
ご苦労で
ございます
さあ
我が主君を
はじめ
諸侯も待ち
かねて
おりました
さ
奥へどうぞ
おう！
羅候様の
おなり——

智をはじめ
孟・超の
上だった諸将が
そろって
やがる
皆の前で
この俺に頭を
下げさせて
南天統一を
天下に示すつもり
だな…
若君
正宗公の御前で
ございますぞ
なにとぞ
おひざまづき
くだされ
いやだ！
若君！
羅候殿！
そなた
我が国に
和をこうために
まいったので
あろう！
なぜ平伏せぬ！

だまれ！
国主たる者が
なぜ他の国の
国主に臣下の礼を
取らねばならんのだ!!
会いに来いと
いうから
来たまでのこと！
剣を抜けというなら
いつでも相手
するぞ!!
な…
なんたることを…
お
おしまいだ
やめいっ!!
ひかえろ
バカ者が！
羅候殿も
刀を収めて
くれ！

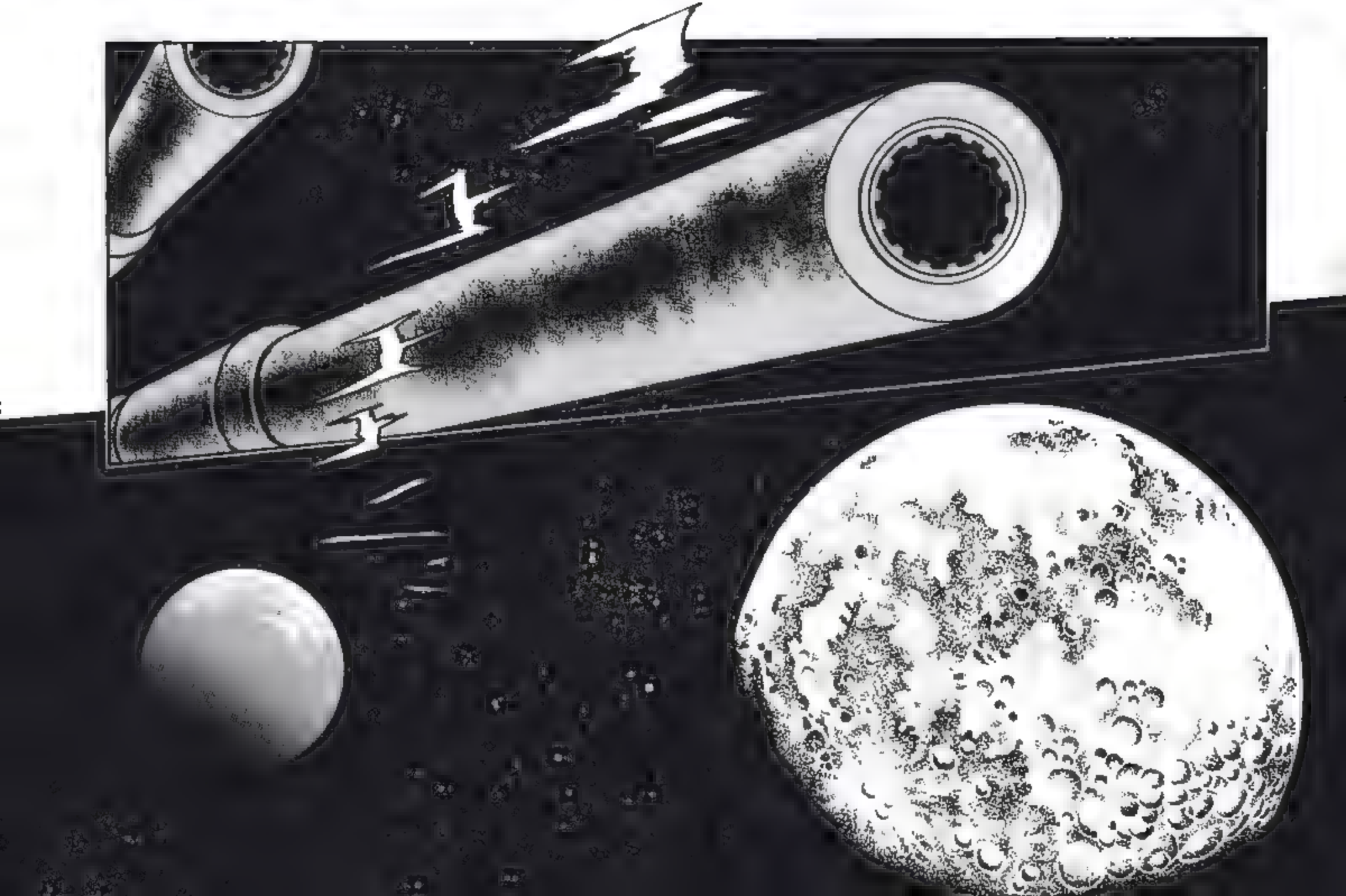
はっ
申しわけ
ありません
……
すまなかったな
羅候殿
部下達の非礼の
数々…
このわたしに
免じて許してくれ
ここ南帝関まで
足を伸ばして
もらったのも
臣従を強いる
ためなど
ではない
羅候殿とは
共に戦った
仲ではないか
当然だ！
ご父君羅鶴殿とは
生前親しく
つき合っていた
その息子である
羅候殿とも
永くよしみを
結びたいと
思ってな
さあ
気を和らげて
この間の
手柄話の一つでも
聞かせてくれ

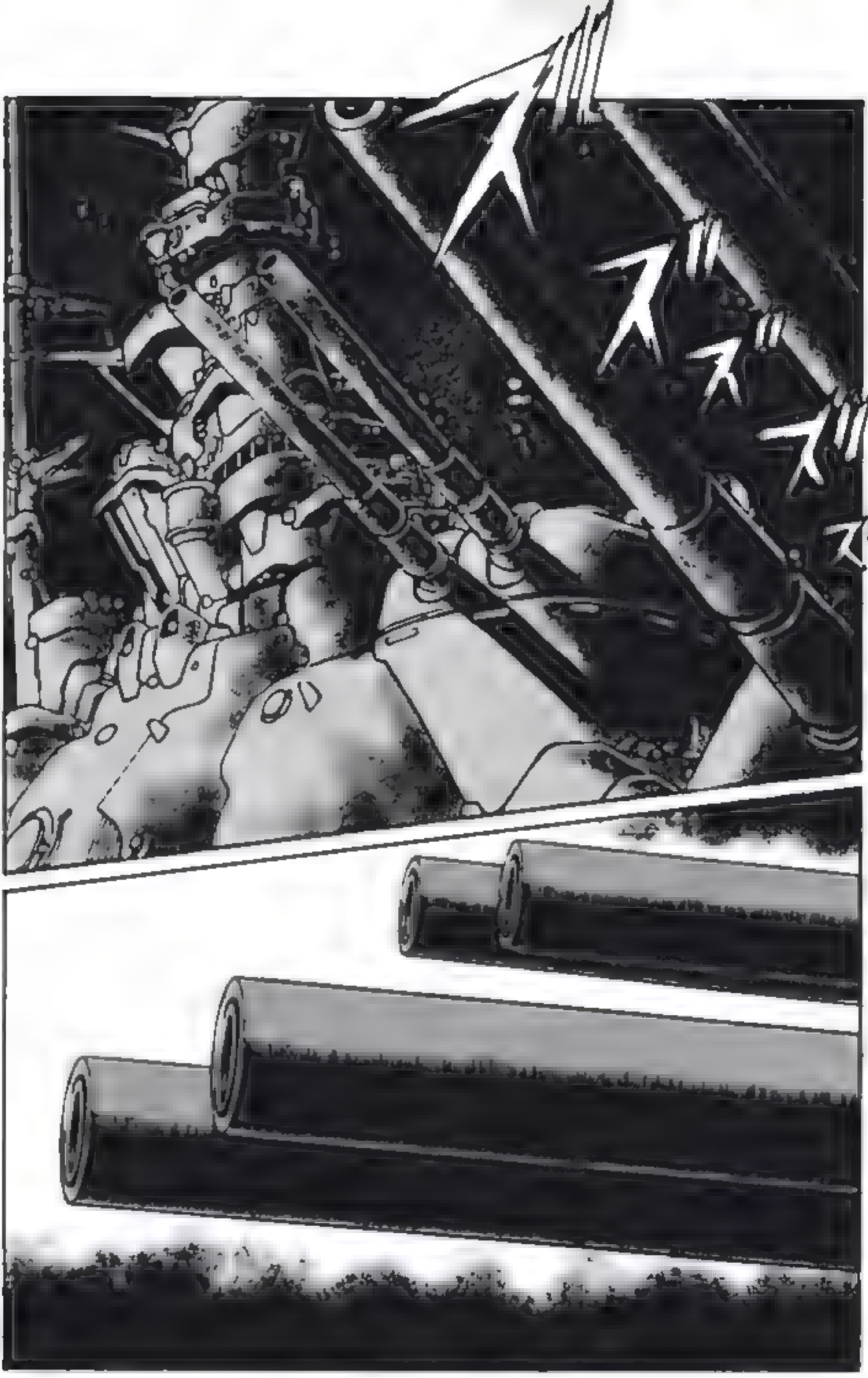
あんたも仲々いける口だな
へへへ このくらい序の口よ！ 酒とケンカはこの羅候様人に出し抜かれたことはねえぞ
ところでこんな席でなんだが一つ頼みがある
なんだ？
虎丸！
姉上…は い

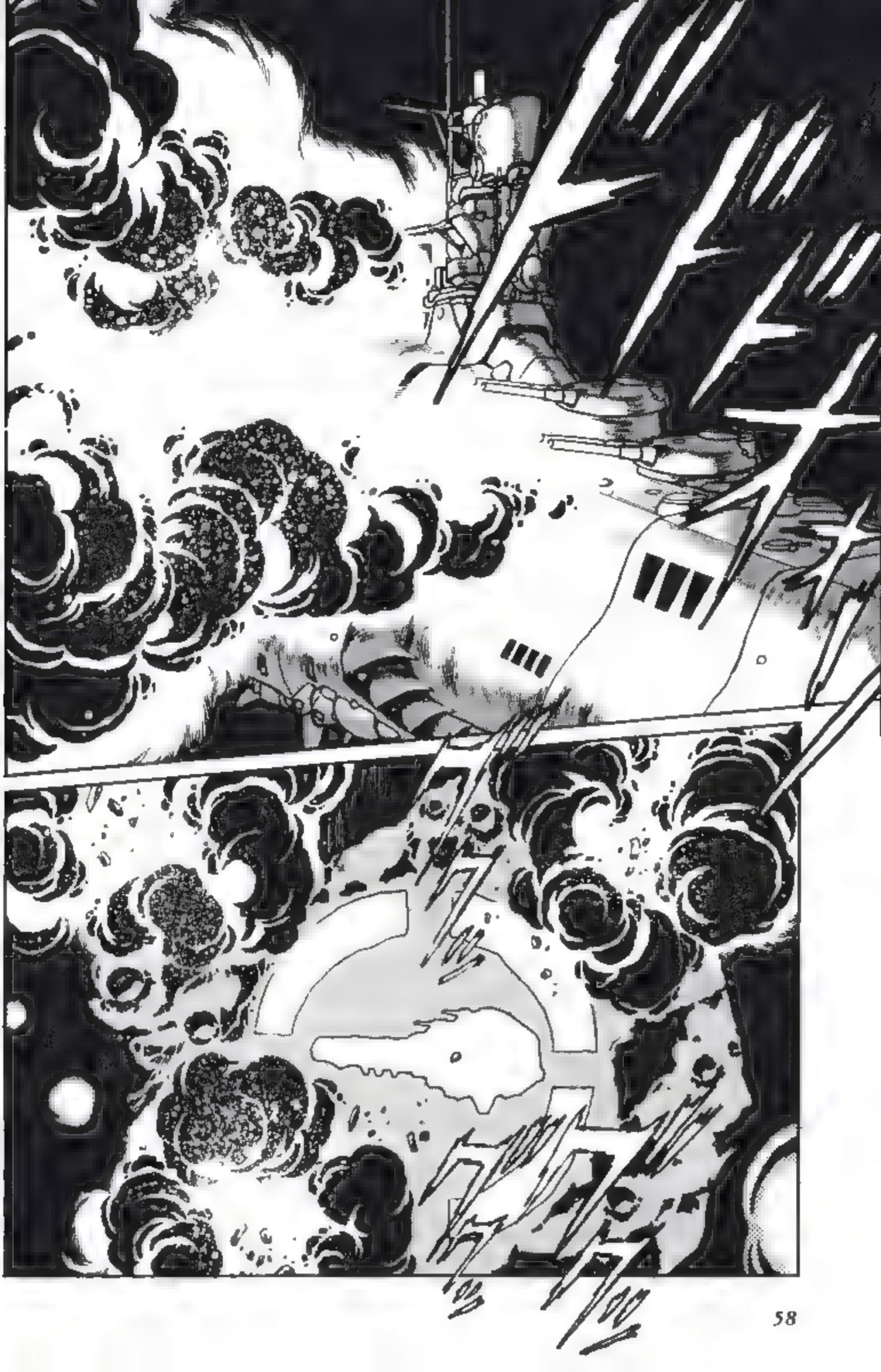
知っての通り
虎丸はこの智の
太子だ
元服すれば
正宗を
襲名する
ことになる
この虎丸を
あんたに
預けたい！
!!
おいおい
酔ってるのか
どーいう
ことだっ
重臣一同
衆議の上で
お頼み申す
わたし達
姉弟は
早くに父親を
亡くしてな
わたしが父親代わりに
虎丸を後継者たる
男に育てようと
したが
子は親を見て
育つっていうだろ
やっぱ女じゃね

あんたが
この虎丸の
兄貴になって
鍛えてほしい
のさ
あんたは
武芸に秀でてるし
何よりも…
天下を取ろうと
する大望を
持っている！
その覇気が
虎丸には
必要でね
ためしているのか…？
この正宗の
頼み
聞いて
くれないか？
えいや
けどな
虎丸
お前からも
頼みなさい
はい
兄上
よろしく
お願い
いたします
兄上って
ちょっと
待てよ

とにもかくにも
このチビが正宗
いや 関にとっては
何よりも大事なはず
それを敵かもしれん
この俺に手渡すとは
返事を聞かせてくれ
この女 人がよいのか 腕が太いのか
わかった…！ 信頼感謝するぜ〃
いや 今日はすごく有意義な日になった しばらくこの城に逗留して遊んでいってくれ
ちょくちょく酒の相手も頼むよ
…




ZZZ
ZZZ
ZZZ
ZZZ



まーた
はずれた!
これで
十六射目だぞ
一発も当たん
ねーじゃ
ねーか!
距離は!?
二万二千
通常交戦
距離
てすな
おいおい相手は
動かねえ
標的だぞ~~~
新式の
射撃指揮装置が
ついてんだろ?
船が新しけりゃ
兵も新米てさあ
三分の二は
補充兵てすせ
あ~あ
先が思い
やられるなあ

よーし
もう太和は
いいだろ
次は武蔵に
やらせろ
武蔵
射撃位置に
入りました
頼むぜ
一発ぐらい
ド真中に
ぶち込んで
くれよ～～～っ!!
あぶねぇ!!
え?
うわっ!!

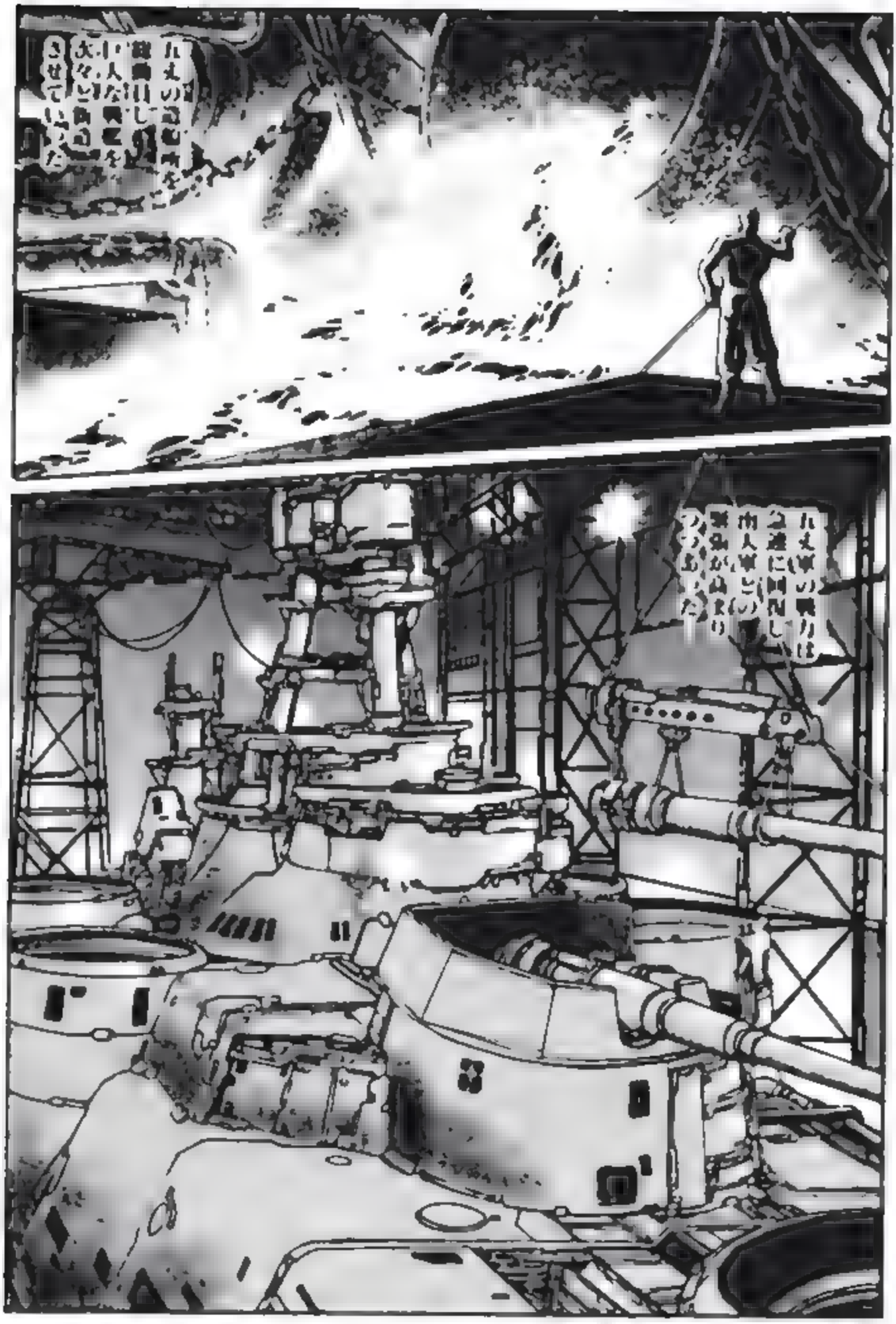
ばっかヤロウ!!
どこ狙ってやがんだ!? 今の奴は一年間便所掃除だ!! くそったれーっ
まあまあ押さえて何せ新入りですから
金剛より武蔵へ早く逃げた方がいいぞ師団長カンカンだぜ
雷ノ
あ狼刃将軍
どうだ新しい連中はここ一か月で少しは戦えそうか?
冗談じゃねえ! 全然なっちゃいねえよ!! 艦隊組めるかどうかも怪しいもんだぜ
もっとマシなの回してくれよ!

雷ノ
だれだって
最初は
そんなもんだ
兵を
鍛えるのも
師団長の
仕事だぞ
それより
すぐに
五丈本営に
帰還しろ
殿がお呼びだ
急げよノ
えっ
なんだろ
俺なんかに？
さあ、
師団長
また何か
しでかし
たんですか？
どういう
意味だ!?
こらあっ！
しかし
将軍も
復帰できて
良かったよ
なあ
まあ
一兵卒降格は
一時的だと
思ったけどな
ズー
当たりまえだろ
狼刃将軍
ほどの人を
殿があのままに
しておくわけ
ねーだろ!!
そーいう
ことですな
けど
玄偉将軍の
副将として
ってのが
気にいらねぇな
はん
そのうち
入れ替わるさ！

*登えの猿 軍団は消耗ごと!!のため各個撃破された

勝ち負けは兵家の常 敗れたとはいえ狼刃は忠義心に篤い者です
何とぞ汚名をはらす機会をお与えくだされ
うむ わしもそれは考えておる
狼刃の処分は法に照らしただけでわしの本心ではない
ならばぜひ我が副将に!!
我が軍団には元狼刃の部下多く必ずや士気も上がりましょう
そして次の南征ではわたくしめに先鋒をおまかせください
汚名返上とばかりに狼刃以下彼らの働きぶりはすさまじいこと間違いなしです
なるほどそちのいう通りだ
だ――っ!!
おまえそれじゃ玄偉の配下になっちまうんだぜ!!
しかし借りは借りだ!!

安心しろ
この独刃
いつまでも
玄偉のような
男の下風に
立っている気
などない
借りを返せば
秩を分かつ
つもりだよ
それを聞いて
安心したぜ
だが気をつけろ
あいつは
頭切れるからな
はっはっは
そーいう意味じゃ
あんたと正反対だね
なんだと〃
こらまて
てめえ〃
冗談、
冗談
こうして
兵丈軍は軍を
再編成し陣容を
一新すると共に
軍備拡張を
続けた
コオウゴウ



殿！
竜我雷殿をお連れしました
おおそうかここへ！
竜我殿 殿がお待ちです中へ
殿はえらく御機嫌でございますぞ
おう！

竜我雷
おおせによって
まかりこしました
おう
待って
おったぞ
近うよれ
殿
お体の方は？
うむ
近頃暖かく
なって
すこぶる
良いぞ
お主と
会うのは
これが三回目
じゃのう
前の二回は
共にわしの前で
大暴れしおったな
お主ほど
わしに逆らった
男は
他には
おらぬぞ
はは
はあ

今日呼んだのは他でもない
先の戦の恩賞のことじゃ
恩賞？
お主は先鋒として座王都への一番乗りは果たしておる
殿軍を務めればよくその任を果たし見事我が本陣の危機を救った
重臣・諸将ともに篤く恩賞をとらせるべきと申しておる
お…お待ちください
恩賞などうけられません〃
なに？いらぬのか
この度の合戦では多くの将兵が倒れ狼刃将軍は責任を問われました

なのに
この俺
いや わたしが
恩賞を受けては
将軍をはじめ
他の将兵に
申しわけが
たちません！
なにとぞ…！
案ずるな
何も
金銀財宝の
類ではない
は？
では
なにを
離れ！
姫さん!!

お主も知っておろう
今は亡き阿曽主禅の一人娘紫紋姫じゃ
……
紫紋姫あの時の約束を今果たそう
後悔はしておるまいな
はい
これがあたしの望みでしたから…
ちょちょっと
約束とはどーいうことです！
お主ら将兵の間にも話は出ておっただろう

紫紋姫は
この度の合戦で
最も手柄を
たてた者の
ところに嫁ぎ
たいと申してな
お主みたいな
無茶男には
しっかりした嫁が
必要だろう
よ…嫁～!!
どうした
どうした
五丈一の
暴れん坊が
女一人手に
することで
腰ぬかすのか!?
いや
めっ…
めっそうも
ない!

よろしく
お願いいたします
お願いって…
ちょっと
まてよ!
おいっ!!

おことわり
いたします!!
ほほう…
姫は
気にいらない
か?
先程も
申したように
女だろうが
何だろうが
恩賞として
いただく
わけには
いきません!
もし 今度手柄を
立てましたなら
その時は
喜んでお受け
いたします!
ふむ…
とはいえ
これは
約束でな…
よし こうしよう
この紫紋姫は
わしに逆らった
主様の娘
敵の娘じゃ!
よって
おぬしに
その身柄を預け
監視を命ずる
これは君命だ!!
え?

よいな
命令違反は
許さぬぞ！
し…
しかし…
よいな！
はあ…

まってください
怒ってるん
ですか？
あったりまえだ〃
どーいうつもり
なんだ!?
どーいう
つもりって
これは天運です

あんた本当に俺のことが憎くないのか!?
もし俺が逆の立場なら何が何でもそいつの首を取るぞ!!
あたしにそうしろというの…
せめて恨むぐらいしたらどーなんだ!?
俺は信じられねえんだよ!親殺しの男んとこに平気で嫁ける娘がいるなんてよ!!
ならいわせてもらうわ!そうよあなたは親の仇よ!!
帝政の再興をはかる父の夢を打ち砕いた憎い男よ!!

だけど
あたしには
あなたを
討つことが
できない！
恨めない
のよ
父はあたしに
仇討ちを
望んだのでは
ないわ…
生きて
生きて…
この乱れた世を
正すのに力を
尽くせと…
けど
あたし一人じゃ
何もできない…
この戦乱の世を
統一できる男に
願いを託すしか
ないの
たとえそれが
自分の父を
討った男でも…

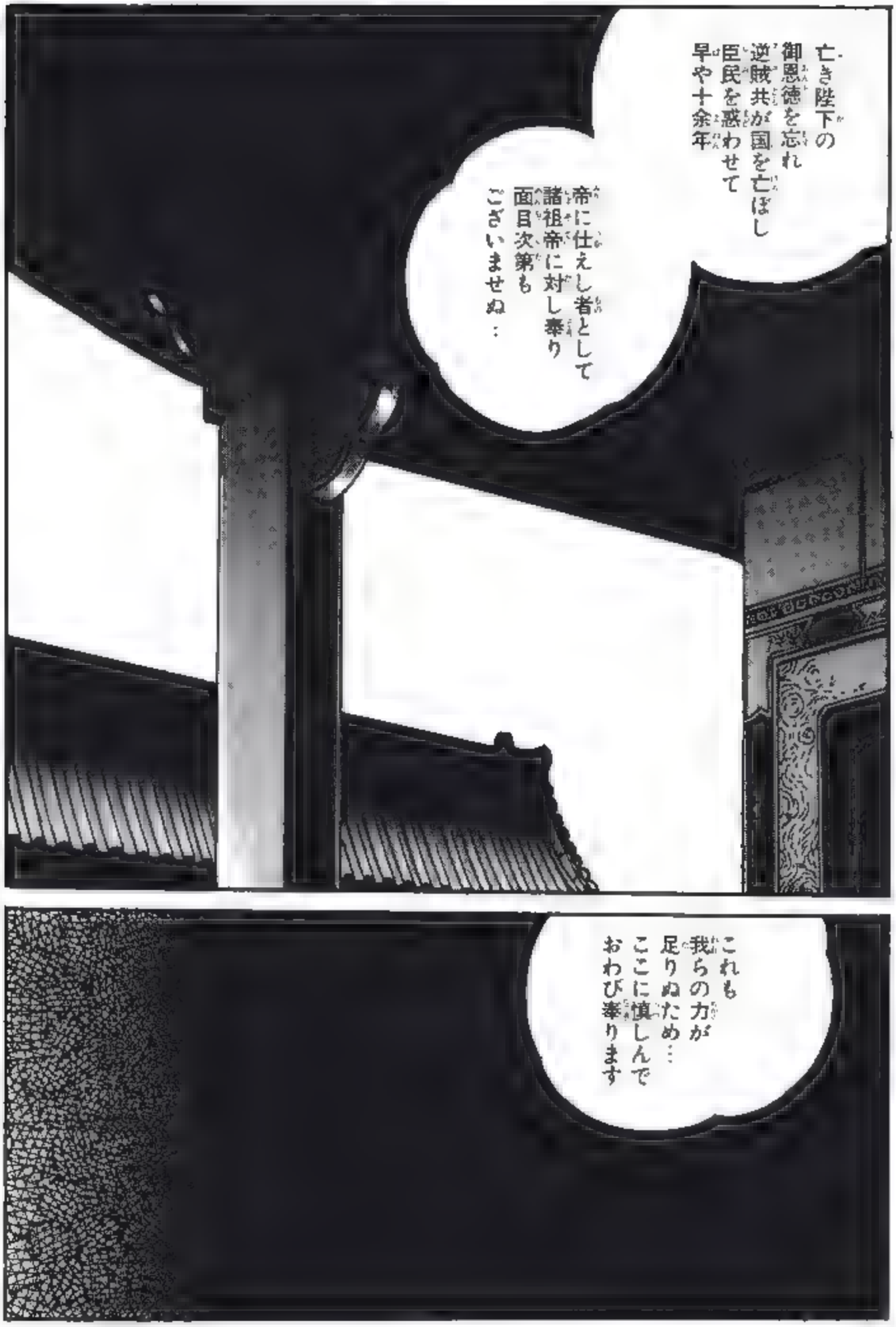
あたしと
一緒に天下を
救ってください…
あなたなら
できるはず
です！

だめですか…？
ふふん
ただの
お姫様じゃ
ねーようだな
たしかに
世間からは
親の仇のところに
嫁くのは節操が
ないと
言われるかも
しれません
言わしゃ
しねえよ！
そーいう奴は
俺が
斬る!!
え？

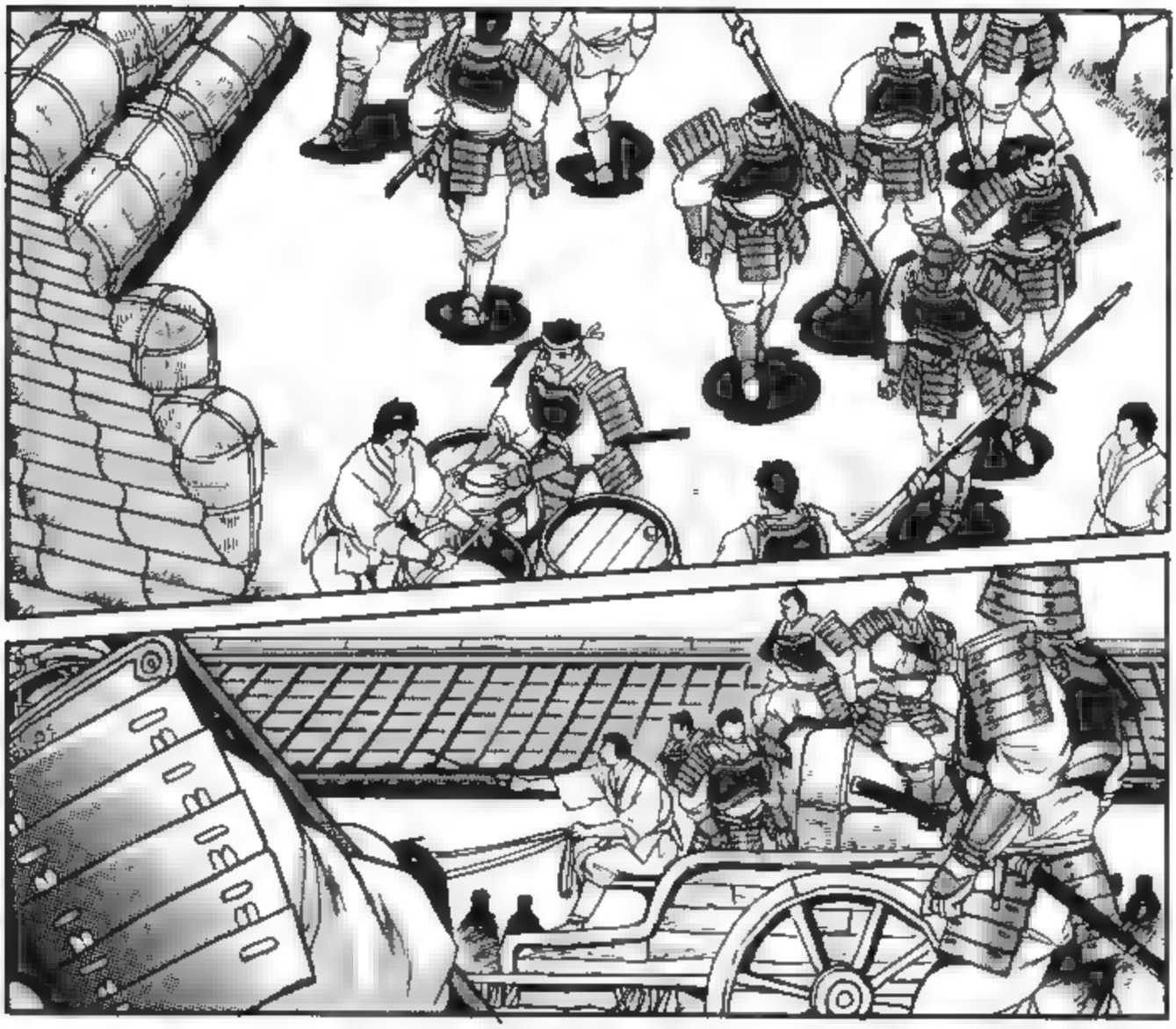
それじゃ!!
まあそこまで俺を買ってくれてるんだ
無下にはできねえしな
雷!!
ただし言っとくけど嫁にもらうんじゃねえぞ!
君命だからな! あんたの身柄をまかされてんだ
かまいませんお側に置いといてくださるだけでも…
まっ俺だって男だからなそのうちその気になれば考えてやるさ

なんせ姫さんいい女だからな
なんかいやらしいよ～～～
ひゃひゃひゃ
煮て食っても焼いて食っても俺の勝手だからな
それでもかまわねえな！
はい！
よーし姫さんのその期待裏切らねえぜ

いつか
天下に号令を
かける男に
なってやる！


亡き陛下の
御恩徳を忘れ
逆賊共が国を亡ぼし
臣民を惑わせて
早や十余年
帝に仕えし者として
諸祖帝に対し奉り
面目次第も
ございませぬ…
これも
我らの力が
足りぬため…
ここに慎しんで
おわび奉ります

ですが陛下！
この苦汁の時も
最早終わりに
近づきました
陛下の勅命により
忠義の兵が
集まっております
逆賊
比紀弾正を
討つ時が
参りました
必ずや
昔の天子の
御威光を
取りもどして
ごらんにいれます
我々を
護り給え…



ふん
この様な
ゲスな連中の
力を頼りにせねば
ならんのは
しゃくではあるが
まあ
使い捨ての兵じゃ
がまんがまんじゃのう

ずいぶんとまあ
集まった
ものじゃのう
はっ
各地に落ち
のびていた兵や
海賊など
様々ですが

三条殿
法権殿が
おお
こちらへ
お通しを
ごめん！
法権殿
いよいよで
ござるな
はっ
我々が
正宗公の到着まで
帝都をお護り
しましょう
ご安心を！
たのもしき
お言葉
ことが成就すれば
そちの功は大じゃ
将軍職を
与えようと思う
ありがとう
ございます
必ずや
ご期待に
そいましょう
では…！
三条殿
大丈夫で
しょうか？
あの男
奴も
弾正の配下では
ここの駐屯職
以上の出世は
できまい
人一倍
出世欲の強い男
必死で
やるしか
なかろうて…

姫さんは
今日から
ここを
使ってくれ
だれも
いねえから
気がねしなくて
いいぜ

ここは？
俺が師団長に
なった時に
もらった官給品の
家さ
俺は兵舎の
暮らしの方が
あってるから
一度も使ったこと
ねえんだ

だから
中も姫さんの
好きなように
使ってくれりゃあ
いい
もっとも
姫さんのいた
御殿に比べりゃ
狭くて汚いけどよ
ううん
あたしね
あーいうお城での
生活
本当は向いて
ないの
もっと
のびのび
したいしね♡
ふ――ん
変わってんな
姫さんは
そう？
・・・・
じゃあ 俺
城にもどるからよ
何かあったら
兵舎に
いるからな
はい
ちょっと――
姫様が来られた
のに
お茶も出さない
気なのーっ！
！

この無礼者ーっ!!
なんだとこのチビスケ!
わーっはなせはなせバカーっ!!
第一なんでおまえみたいなチビがここにいるんだ?ええっ?
姫様のお側にいなさいって李張道師様のお言いつけなの!
李張道師っていやあおまえ…殿の軍師だったっていうじいさんじゃねえか
そいつがなんでおまえなんかを…
五丈一の乱暴者のとこに行くんだもん心配して当然でしょーっ!
だーっ余計なお世話だ!!
クスクス

あたしのことはいいです 軍務もあるんだし
ほらみろチビスケ！
ブーっ!!
こら――っ 姫様に掃除させる気かー!!
自分が住むとこは自分でやるのが当然だろ！
わ――っ！ すっごく無礼な奴～～～っ！
いいのよさあ手伝って
あの人あれで精一杯気を使ってくれてるのよ
雪葉使いだけで決めつけちゃだめよ
そうですかあ？
なんだかあたし姫様が心配です……

ほう
紫紋殿を
あの若者に
パチ
うむ……
南征の恩賞と
してな……
殿が処遇に
頭を痛めていた
姫御……
うまく処理
なされましたな
どういう
意味じゃ
いやいや
今の殿には
皇室の血なぞ
何の意味も
ありませぬ
だが諸将の間には
まだまだ隠然たる
支配力が
ありますからな
パチ
今はともかく
将来その血統を
利用しようとする者も
現れるやも
しれませぬ
だが殺して
しまっては
民心をおびえ
させることに
なりましょう
あえて
名もない一将に
お与えになったのでは
ございませぬか？
ふ
さすが先生
何もかも
お見通しですか

あの男
狼刃とは
強い仁侠的な
主従関係にある
それ故
たとえ将来
野心を大きくしても
狼刃には
逆らえん
オレの二だ
なるほど
その狼刃は
最も忠義心の
篤い実力者!
しかも
思慮とあらば
他の諸将も
文句はいいますまい
まあ
美女と野獣
だがな
ところで
先生は易を
おたてに
なりましたな
このわしを
占ってほしい
はっはっは
御冗談を
殿は位人臣を極め
あとは
皇帝の名のみ
何を今さら
易をたてる必要が
ございますか
ならば
わしはいつまで
生きられる?

なにか心配事でも？
そういえば石の打ち方がいつもと違いますな
まさに内憂外患とはこのことじゃ
ほう書簡ですか……
わしを討てとの公家共の檄文じゃ
亡き帝の遺勅が出回っておるらしい
なーにおそらく偽造でしょうご心配なさいますな
だが南天の連中に大義名分を与えることになる……
今の正宗に必要なのは〝時〟だけだ
〝時〟を知るからこそ正宗は動きますまい……
それよりこれを機に朧をひねり出されるべきです
叛賊を討てというのだな
後日に禍を残さぬためにも……

うむ
たしかに
先生のおっしゃる
通りだ
二度と
甘い夢をもたぬように
してやろう
いや
年を取ると
つい弱気を出して…
見苦しいところを
お見せしました
いやなに
まだまだ殿には
がんばって
もらわねば
はっはっは
また一勝負
頼みますぞ
それでは
いずれまた
こちらこそ
また
お教え下され
♪
……

将軍
どちらへ？
うむ
殿より出仕せよ
とのことだ
軍議が始まる
極秘のな！
それでは…
そちの言う通り
殿は
正宗動かずと
みたようだな
叛賊をいぶりだし
旧勢力を一掃する
おつもりだ
やはり
あの書簡
殿にお渡しして
よかったな
はい
天文を見ますところ
主星輝きが
おとろえるものの
まだ健在で
ございます
しかも
あの密勅は
公家共の
あがきに
すぎません
とても天意
とは申せません

皇室勢力を
一掃できれば
この銀河は南天と
五丈の二大勢力に
完全に分かれよう

強力だが
力の集中の図式は
単純になる
わけだ…

機が熟さぬうちは
事はおこせぬ

時機を
待とう

御意

そう……
これでいいはず…
将軍が王道を
歩む時は近い……

けど
今だに
邪気がこの五丈
から消えない……

いったい
だれが

兄き――っ
姫様をお嫁にもらったって本当ーっ!!
だ…だれがそんなこと言ってんだ!?
え――っだって師団中その話でもちきりだよ霊海や副団長なんか宴会始めちゃってるし
バッキャローっ!!そんなんじゃねえんだよ!!殿とあいつが勝手に決めたんだ!!
押しかけ女房って奴なんだよ!!
でもまんざらじゃないんじゃない～?姫様美人だしさ～
へっな――にをわかったようなことを

あぶねえ!!

きゃははは
ひ…姫さん！
悪ふざけは
いいかげんに……
大当たりや!!
やめ…
雷！
あんた紫紋を
引きとったん
やてな…!!

このこのこの――っ!!
わ――っやめろ危ねえじゃねえか!!
ドカーン!!
なんやねんうちという女がありながらあ――んな奴に手ぇ出して――っ!!
いててちょっと話を聞けって!!
あの――師団長
狼刃将軍がお呼びなんですけど…
うるさーいっ!!こっちは今取りこみ中や!!

遅くなりやしたーっ！
雷!?
なんだその格好!?
またケンカか
ほどほどにしとけよ
ケンカなら
どれほど
いいか…
まあいい
中へ入れ!!
出陣命令を
与える！
出陣!?
戦かよ!?

おい
そりゃ
ひっかき傷だな
相手は女か？
うるせー！
静かに!!
先程の軍議により
我が第一軍団に
出陣命令が
出た
とはいえ
主力は国境に
張りついたまま
だし
動けるのは
編成作業中の
諸君ら20個師団
のみだ
こころして
かかるように！
俺達だけ？
南征とは違う
みたいだな
じゃあ
他にどこに
敵がいるんだよ
我々は
反乱軍となる！

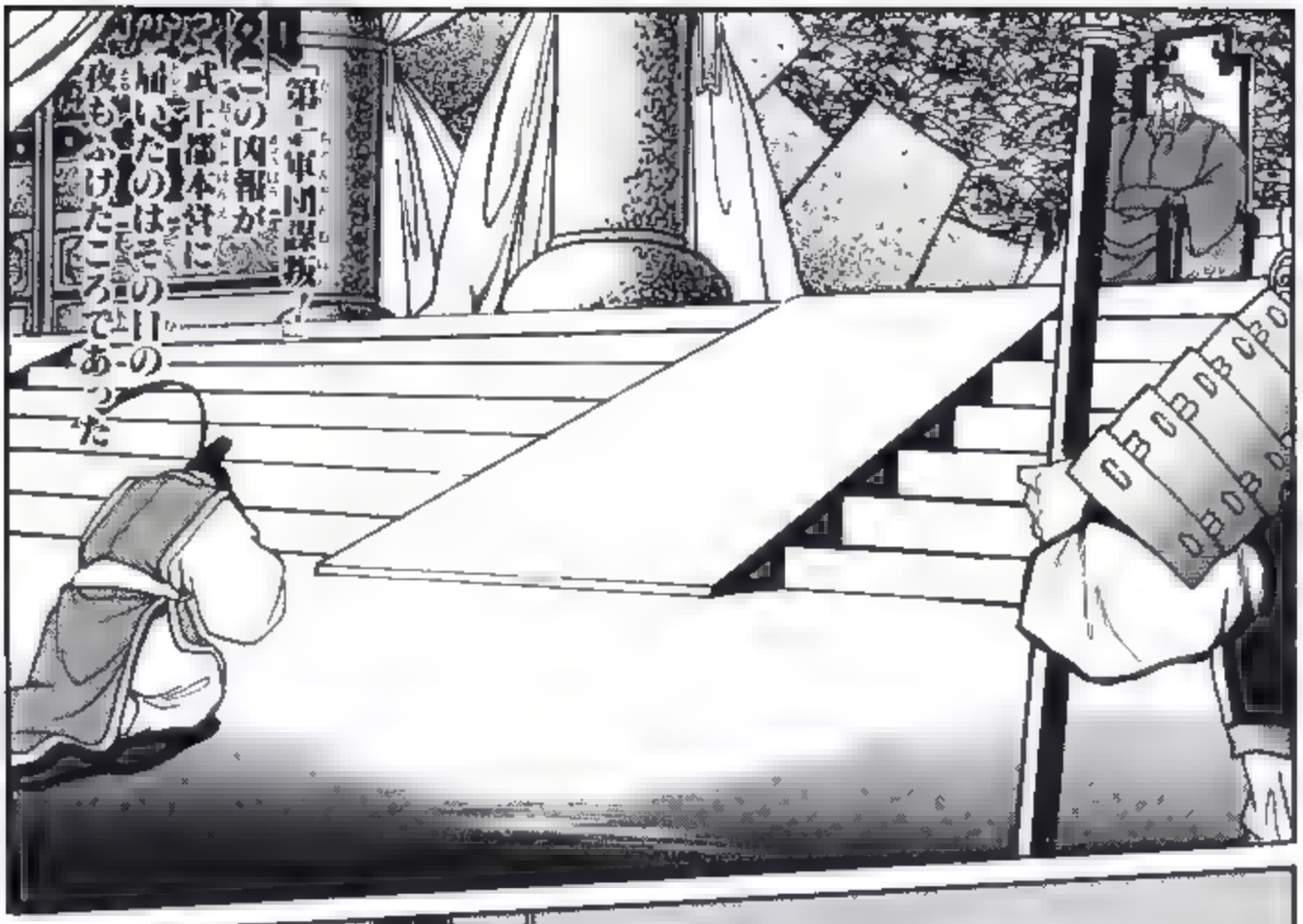
な…っ
狼刃将軍
うん！
安心しろ
別に南天に
寝返るんしゃない
この国にいる
ダニどもに
そう思わせる
だけだ
そのダニどもって
とこのといってす
？
謀叛を
たくらんでる
公家とも
旧皇室勢力だ
連中は
先帝の密詔
なるものを
ふり上げて
反五丈勢力に
決起を
うながしている
我々は
それに応じるのだ
狙いは
他の反乱分子どもを
釣り上げることだ
一個軍団もが
動けば
かならず同調する
奴が出てくる
そこを叩け!!

国境の主力軍をこの武王都に向かわせ模擬戦闘をやる
おまえ達は要所要所に配置しダニどもの動きに備えろ！
配置は戦闘団経由で指示する！
二日以内に出撃準備をすませろ
当日は偽電文や暗号が飛びかう専用チャンネルは開けとけよ
おまえらに役者としての才能はなかろうがリアルさが大切だからな！
最後にこの作戦は次の南征に備えて後方の憂いを一切失くすのが目的だ
勝利ではなく全滅させろ！一人も残すな！皆殺しだ!!!

おい
師団長の
お帰りだぞ!!
おうっ
みんなで
出向かえてやれ!
よお
色男!!
よお雷!
式の日取りは!?
このわしが
立会人になっても
いいぞ!!
わっ
ねえ
ねえ
どーでした
お姫様の
抱きごこちは!?
まあまあ
座って
くださいよ!!
やっぱ
お姫様ともなると
そこらの慰安婦
とは違って
上品でしょ!!
あ――
俺金なんか
いいから
やっぱ思賞は
女だよなーっ!!
あのな
おまえら!!
夜の方も
ほどほど
しとかないと
演習
もたないっすよ
!
ちくしょう
上玉
たぶらかし
やがって――っ
どーして
やろか!!
ぼこぼこぼこ

やっかましいーっ!!
酔いをさませ
出陣だーっ!!
全員、
フル装備で
一時間後に
乗艦!!
カマの圧を
上げとけよ
二日後に
全力出動だ!!
いそげ
もたもたするな
ーっ!!
おおっ!!

二日後
国境を守備
していた
第二軍団は
針路を武士都に向け
進撃を始めた
隠密行動であった


「第二軍団謀叛！」
この凶報が
武上都本営に
届いたのはその日の
夜もふけたころであった

事の重大さに
ただちに鎮圧軍が
編成され
迎撃に向かうと同時に
国境の守りを固め
南夷に備えるよう
全軍に指示が
飛んだ

夜の宮殿内は
騒然となった

玄偉・狼刃共に
歴戦の勇将じゃ
叛乱は
長びくやもしれん
やはり狼刃将軍は
前の南征の
処分を快く
思ってなかったのだ
先帝の密詔が
出回ってる
そうじゃ
殿を討てと
！
斉王都には
軍勢が集結
してるとか
智の動きも
気になる
正宗も
この謀叛に
関ってるのでは…
内に叛乱軍
外には正宗と
なれば
いくら精強な
五丈軍といえども
危ういぞ
わ
我々は
亡き先帝の
御恩をこうむって
いる朝臣だ
我々に害は
ないはずだ
それは
逆だぞ
朝臣で
ありながら
叛賊に
家臣として
召しかかえ
られたのだ
ことある時は
朝廷より
おとがめが
あるやも
しっ
声がでかい！

南帝閣

ふあぁっ！
ズリッ!!
たあっ!!

俺こんなとこで何してんだ…？
俺にはすることがあるはずだ
たしかに今は俺にとって逆風だがガキの子守りをしてる場合じゃないぞ…!!

兄上 何を考えてるの？
いいや 別に
兄上は刀を取らせれば鬼神とでも討ち合うと姉上に聞いたよ
へへ――っ 自慢じゃねえが生まれてこの方負けたことはねえよ
鬼神だろーが竜だろーが一刀両断よ！
じゃあ五丈の竜我雷って奴より強い？
なんであいつを知ってんだ？
姉上の檻で見た
てどうなったあいつ!?
姉上が短筒で仕取めたけど止はさせなかったんだ
BANG

そうか
あいつは
生きてるのか…
でも
すごかったよ
たった一人で
突っこんで
きてき――っ!!
また会えるな…!!
よーし
手ほどきして
やらあっ!
ついてこい!!
わおっ!!

ほらほら
しっかり打ちこんで
こーいっ!!
そんなんじゃ
ネズミも
切れねえぞ!
この――っ!
ふっ…
仲良く
やってるな
お館様!
全軍待機して
おります
玄偉・狼刃の
謀叛が明らかな今
好機到来です!
この機を
のがしては
なりませんぞ

北伐は
中止だ！
なんと…！
な…なにを
おおせられます
今をのがしては
その逆だ
事を成すには
時を得ねば
ならん
玄偉ほどの男が
それをわきまえて
いないはずがない！
飛竜：お主
弾正の余命
いくばくも
ないといったな
はっ
俺が玄偉なら
それまで待つぞ
弾正が生きて
いる限り
五丈は強い！
それでは
この度の謀叛は…
偽りだと？
あの男は
切れ者だからな
先の先を
読んでいる
あの密詔とて
偽物だという
当然見破ってるさ

偽りの謀叛なら当然我々の進路には罠が待ってるはずだ
この間とは立ち場が逆になるぞ
公家どもを見殺しにすることになりますね
かまわん！俺もあいつらは虫が好かん
俺が天下を取った時には皆殺しにしてやろうと思っていたからな
それを弾正が代わってやってくれるだけさ
斉王都

法権様！
艦影です!!
戦艦クラス…
1隻です！
こちらに
急速で接近中
距離12万4千!!
1隻だけか？
どこの艦だ
聞いてみろ!!
はっ
第一軍団
第二十七戦闘団
所属の
戦艦金剛です！
玄偉将軍の
急使として
法権様に
お会いしたい
と！
おおっ
待ちかねたぞ！
これで
世直しも
できる!!
よし
使者を出迎える
準備を！
艦隊集結し
威勢を見せ
帝都は万全と
いうことを
示さねばならん！
ては
そのように

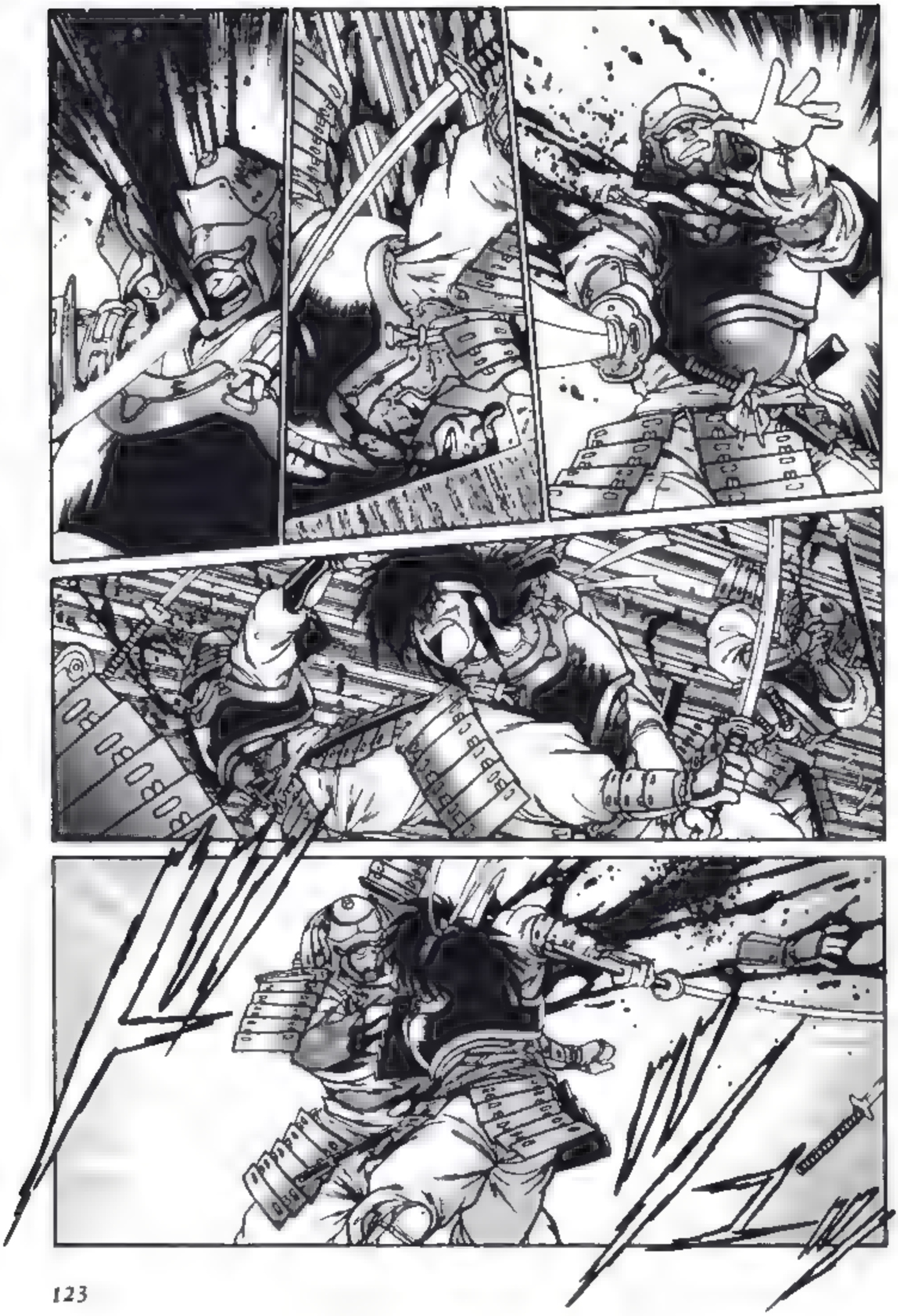
これはご使者殿よくまいられた
我が司令官も首を長くしてお待ちしておりました
案内しろ急ぐ！
はっ！

ご使者殿
ご苦労で
あった
わしが
法権じゃ！
して
この度の
用向きは？
そちらの戦況は
いかがかな
将軍閣下は
そちらとの
共同作戦を
考えておられる
まずは
帝都の戦力を
確認しておきたい
とのお言葉だ
ごらんなされ
この艦隊を！
優に5個師団は
おりますぞ
これから
続々と参加
しましょう
帝星
本土の戦力は？
兵はいくらいる？
15万は
みな武芸
達者で
ございますぞ
ほう15万とな
それは大した
戦力ですな…!!

いやいや
こちらこそ
玄偉・独刃
二将軍にお味方に
なっていただければ
これほど心丈夫な
ものはありません
将軍に
お伝えくだされ
今が世直しの
時だと！
この
売国奴が!!
は？
ぐわっ!!

ああっ
法権様!!
四〇七七師団
竜我雷!!
てめえら逆賊を
ぶっ殺しにきたぜ!!
覚悟
しやがれ!!

ぬおお!!



他の艦に
知らせろ！
罠だ!!
全艦隊に
告ぐ!!
友軍ではない！
敵だ!!
警戒
せよ!!
やい
賊軍ども
よく聞けいっ!!
おまえらの
大将、
法権は
この竜我雷が
討ち取った!!

俺は玄偉将軍の命でてめえらをぶっ殺しにきた！
斉王都は完全に包囲している！逃げられねえぞ!!
独眼竜なんて来やしねえ!!
てめえらのバカバカしい騒ぎもこれで終わりだ!!
こいつで夢からさめやがれ!!
カ!!

ぜ…全艦
右電探に
被弾…!!
な
何と
〃
ぐだぐだ
言ってねえで
降伏しろ!
次は全弾
艦橋に
ぶち込むぞ〃

え 援軍がこなければもうだめだ〃
かなうわけがない〃
降伏旗をかかげろ!!砲身を下げて降伏の意を表わすのじゃ〃
機関の火も落とせ!いそげ!!
命だけは・・

三条様！
敵の猛攻
これ以上
防げません！
ばかな！
たかだか
1個師団
ではないか
15万もの軍勢は
どうした!!
とにかく
お逃げくだされ！
敵は少数といえども
兵を率いるは
あの竜我雷で
ございます！
今一度！
再起の時を!!
ならぬ
先帝の御所を
お守りするのだ
とはいえ
所詮は
烏合の衆
15万の軍勢も
五丈正規軍の
精鋭にかかっては
相手にはならない
ましてや
自軍の艦隊を
失い
制海権を奪われた今
なすすべがなかった

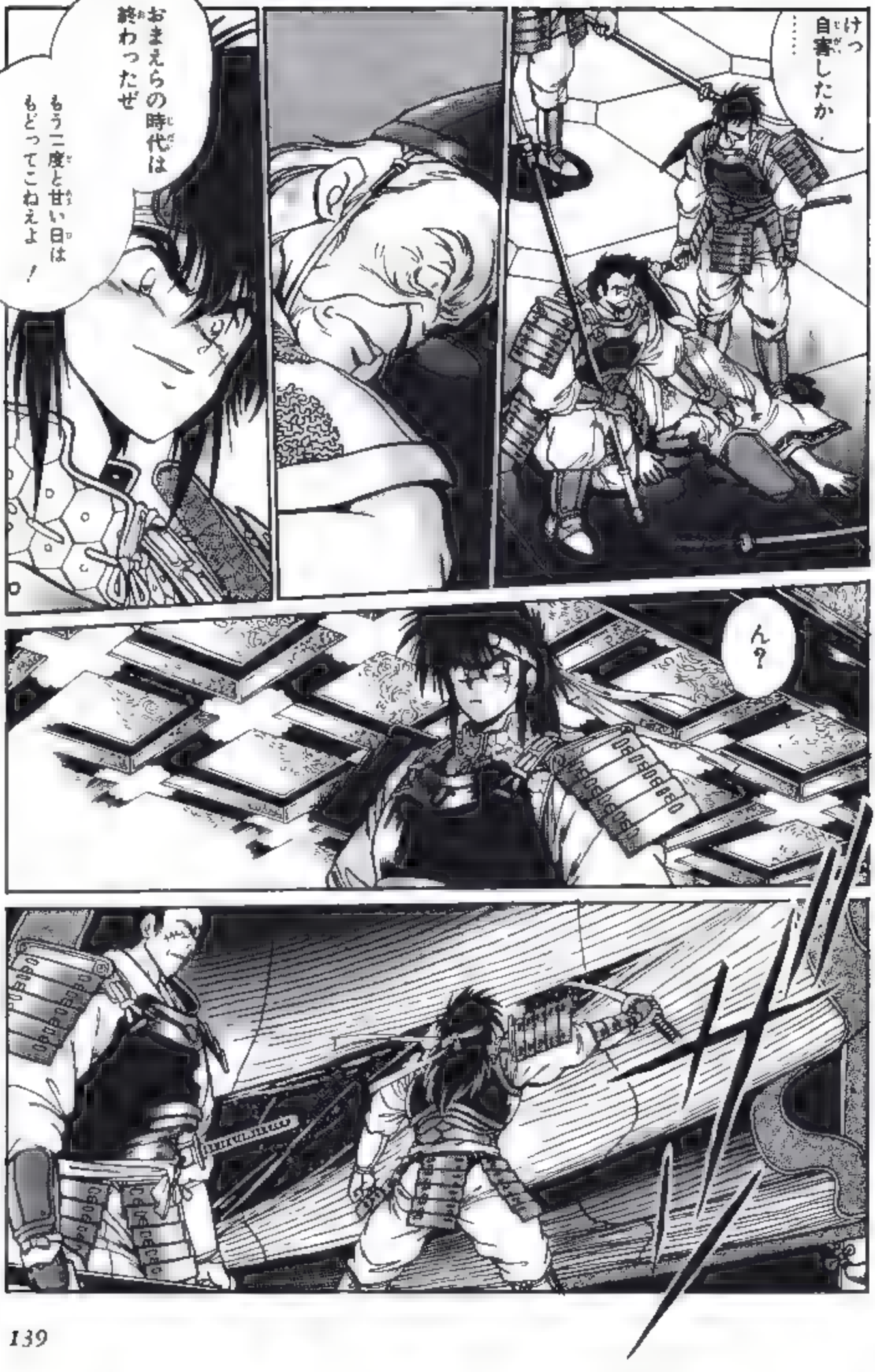
討伐軍だ!!
バカ者 逃げるな 応戦しろ!!
御所に 入れるな!!

どけえっ!!
街に火をつけろ!!
一兵たりとも逃がすな!
皆殺しだ!!
ドドド

防げ
防げーっ!!
きさまら
それでも武人か!!
名を惜しめ!!
!!ぐふっ

首謀者
三条を捜せ！
公家どもは
皆殺しだ!!
ひ――っ
"

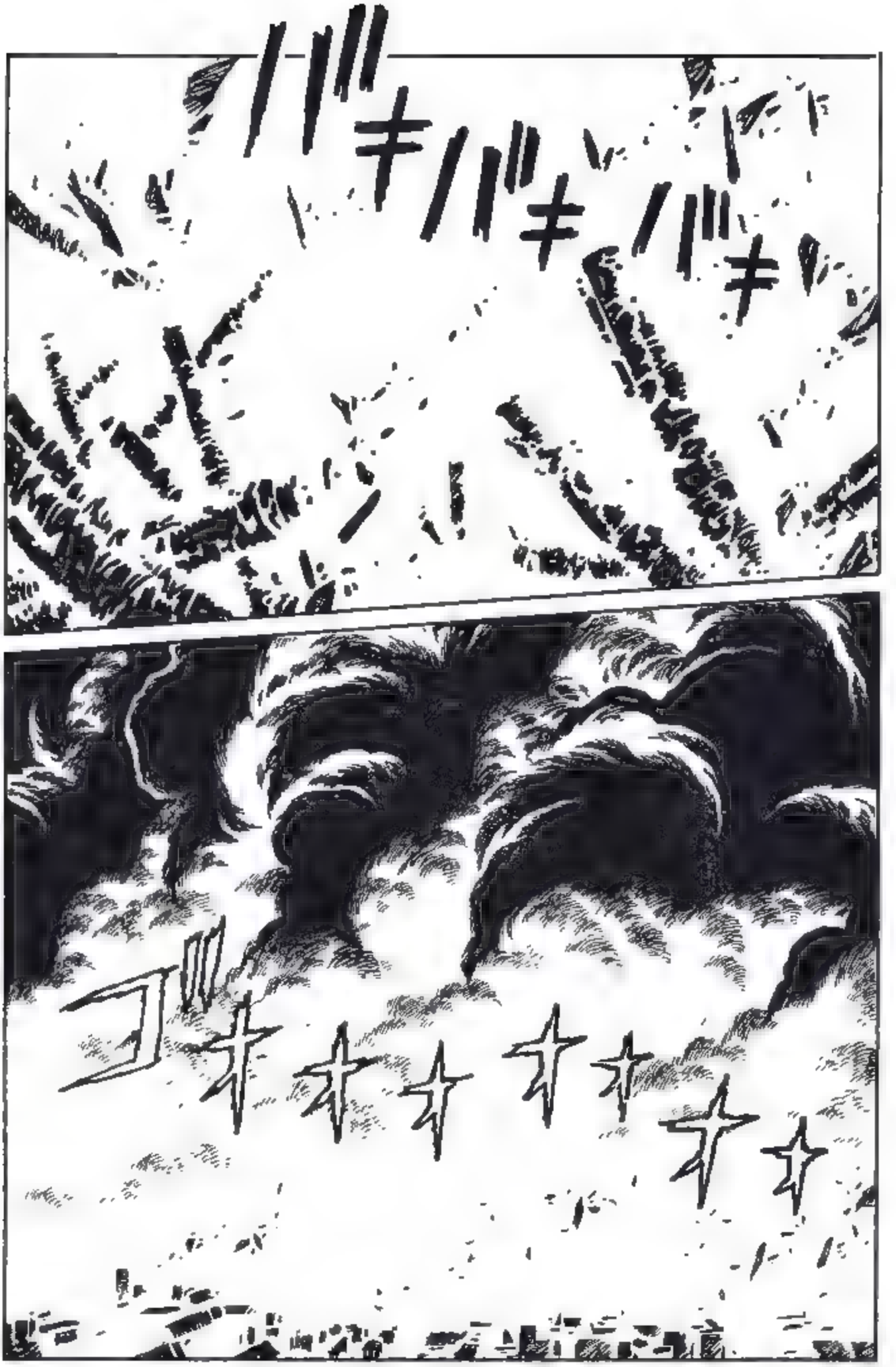
三条はいたか!!
どこにもいねえぜ!!
おいっ 三条はどこへ行った!?
知らぬ
けっ あの古ダヌキが……!!
捜せ——っ!! 何としてでも捜しだせ——っ!!

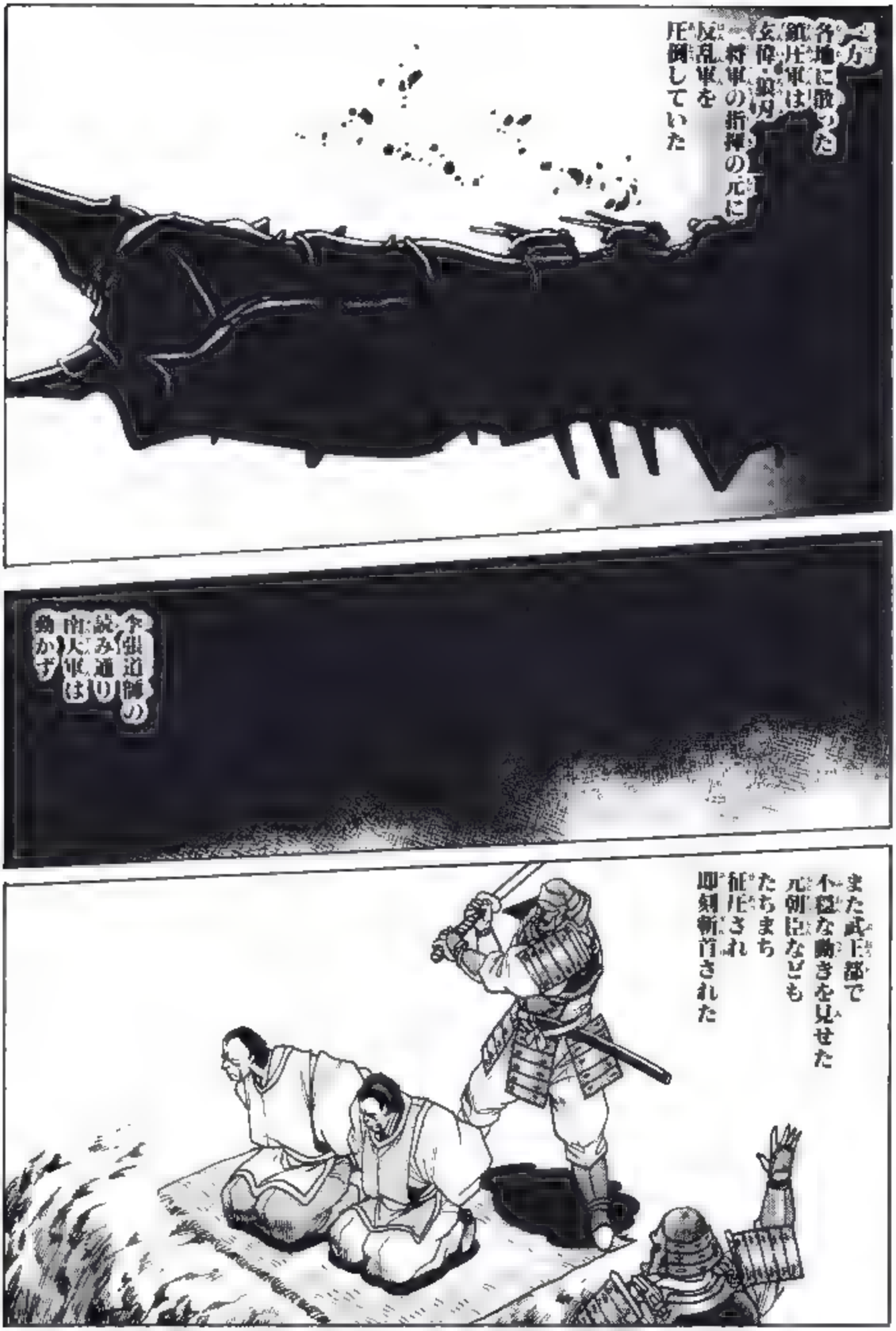

けっ
自害したか……
おまえらの時代は終わったぜ
もう二度と甘い日はもどってこねえよ！
ん？

これは…
こいつは皇帝の椅子ですぜ
へえ――っこいつがね
銀河帝国皇帝か……
どーです師団長！こいつに座ってみちゃ
へへえそーだな

へっ
こんな亡びた
帝国の皇帝の
椅子なんかに
座っちゃケチが
つくぜ！

よ——し
引きあげだ
三条の首
忘れんなよ！
御所も何もかも
燃やして灰に
しちまえ！
何も残すな!!


バキバキ
ゴゴゴ


一方
各地に散った
鎮圧軍は
玄惟・源内
将軍の指揮の元に
反乱軍を
圧倒していた
李張道陳の
読み通り
南大軍は
動かず
また武士都で
不穏な動きを見せた
元朝臣なども
たちまち
征圧され
即刻斬首された

ドドドドド
ゴオオ
姫様 南の空が真赤です
ほんと

雷……
とにかく
戸閉まりを
しっかりして
早く休みましょ
ドドドド
はーい
姫様を
早くお連れ
するのじゃ!!
はっ

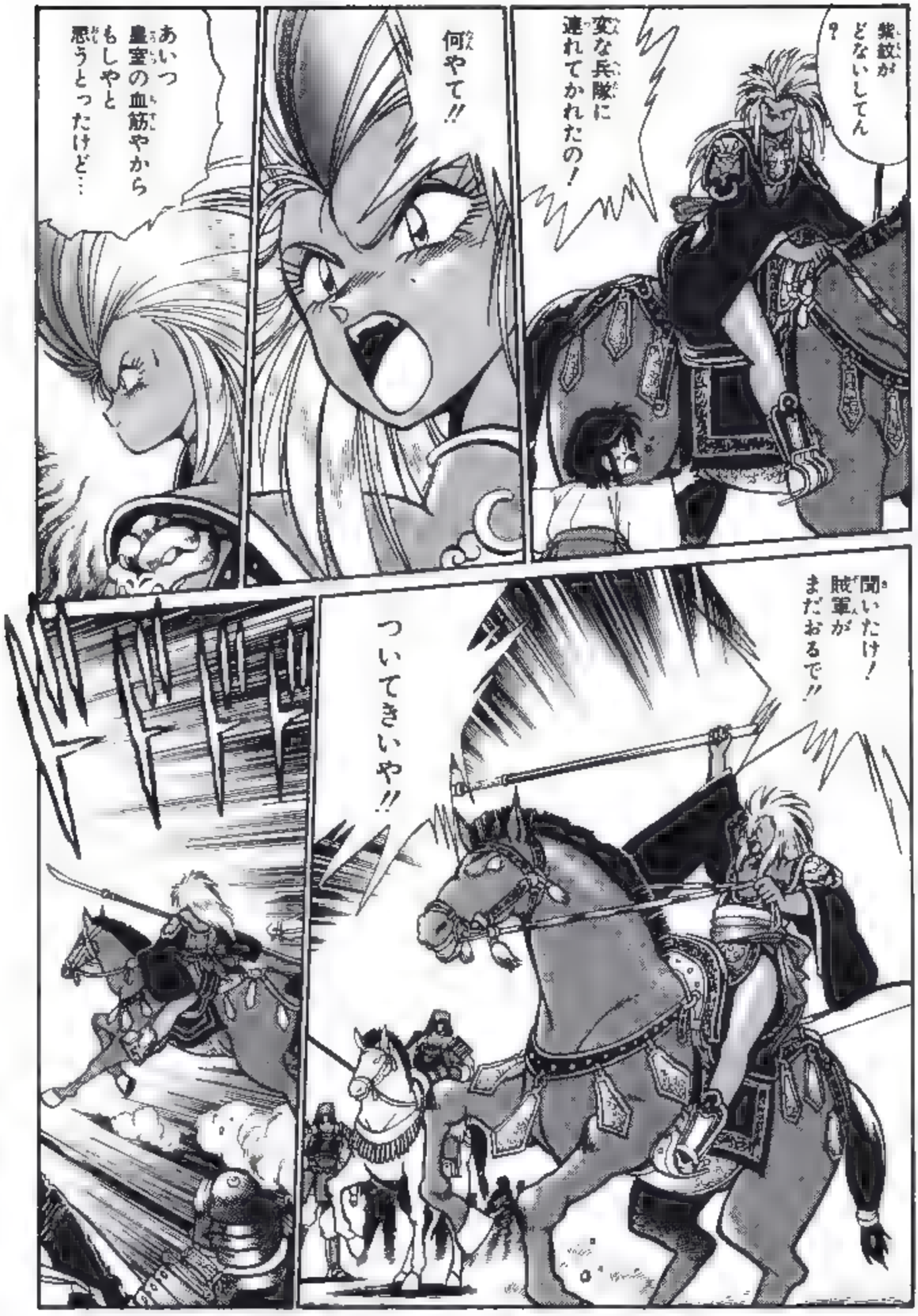
あ――っ
無礼者――っ!!
勝手に入るな!
失礼ながら
お迎えに
まいりました!
事は急を
要します
急ぎ馬車に
お乗りください!
あなた達の
考えていることは
わかりますが
わたしは
行きません!
なんと!!
しかし姫様!
弾正の追求は
まもなく
姫様の御身にも
ふりかかりますぞ
わたしは
もう皇帝の
血筋の者では
なく
竜我雷の
妻です
夫が戦っているのに
なぜわたしが
身を隠す
必要があります?

そうは
まいりません！
あなた様が
どう思おうと
帝政復活の
ためには
あなた様が
必要です
御免！
あっ
ちょっと
何するの！
はなしなさい!!
姫様に
何をするかーっ！
無礼者！
無礼者!!
ポカポカ
きゃん！
申し訳
ありません！
時間が
ありません
ので！
はなし
なさいって!!
おいっ
手荒に
あつかっては
ならんぞ!!

はなしなさいよ！
わたしを
どーするつもり!!
まことに
申しわけ
ございません
もうしばらくの
御辛抱でございます
艦を用意して
あります
お願いでございます
我々忠臣を
お見捨てに
ならないでくだされ
あなた達…
もう時代は
変わったのよ……
もう
覚えて
らっしゃい！
ｱﾀﾀﾀ
あっ！
子供が
逃げたぞ
追え！
口を封じろ!!

まていっ!!
ついてくるなよ
バカ——っ!!
食らえ
魔霊符(まれいふ)っ!!
わ——っ
全然(ぜんぜん)きかない
またんか
ーっ!!
このっ!!

おら
こんなチビ助に
何してんのや！
麗羅様！
おいっ
まずいぞ
追手だ！
またんかい!!
ぐっ!!
こいつらも
賊軍やな！
麗羅様
お願い！
姫様を
助けて!!


紫紋がどないしてん？
変な兵隊に連れてかれたの！
何やて!!
あいつ皇室の血筋やからもしやと思うとったけど…
聞いたけ！賊軍がまだおるで!!
ついてきいや!!

放すな
兄貴を放せなかった
このままじゃ
カラカラカラ
!!
追手だ!!
おったてあれや!!

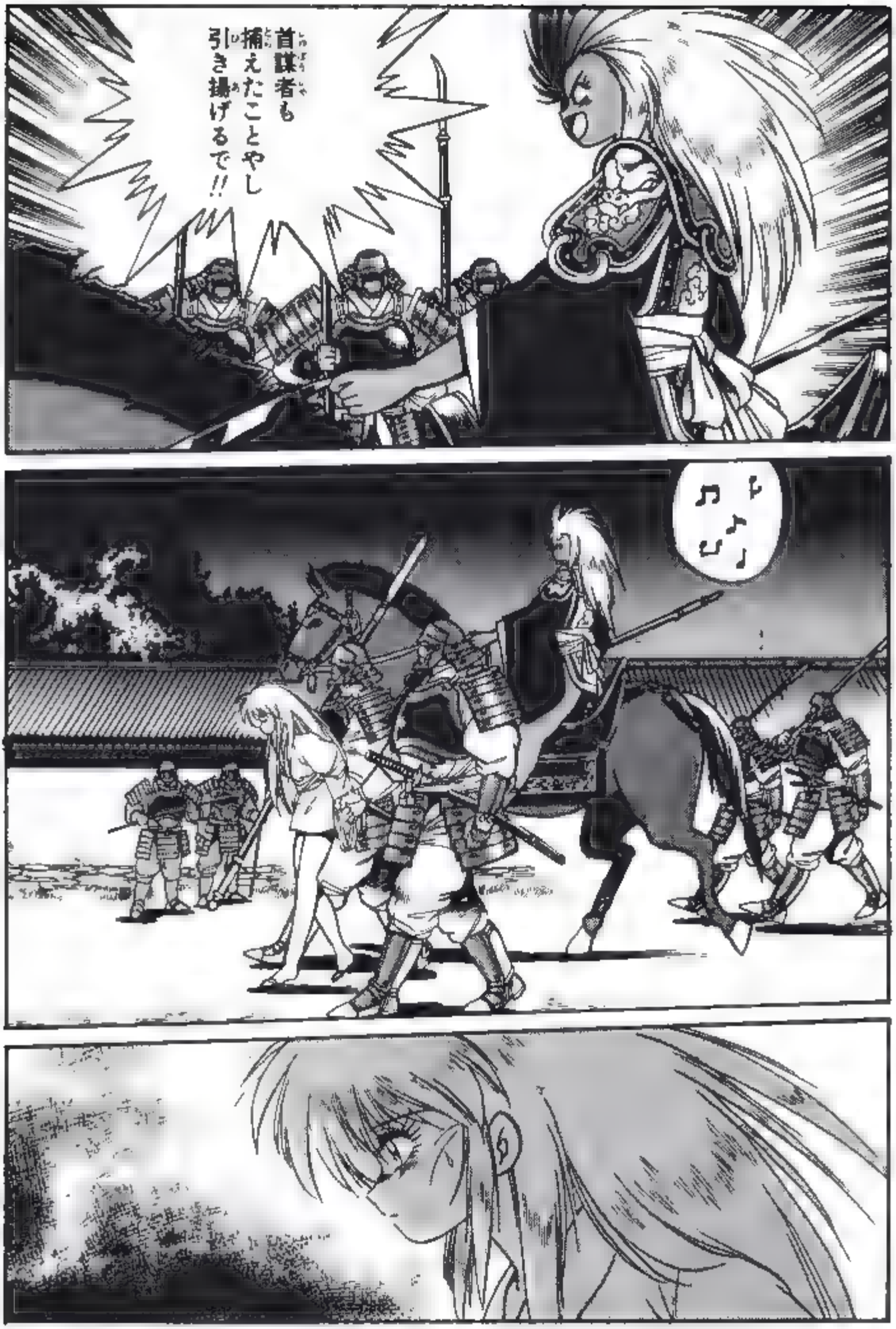
うわっ!!
きゃあっ!!
ドドドドド
だあーっ!!

おらおら
反乱起こすん
やったら
もうちっと
気い入れや〃
ひいいっ〃
アホ――っ！
逃がすかい〃
ゲッ〃

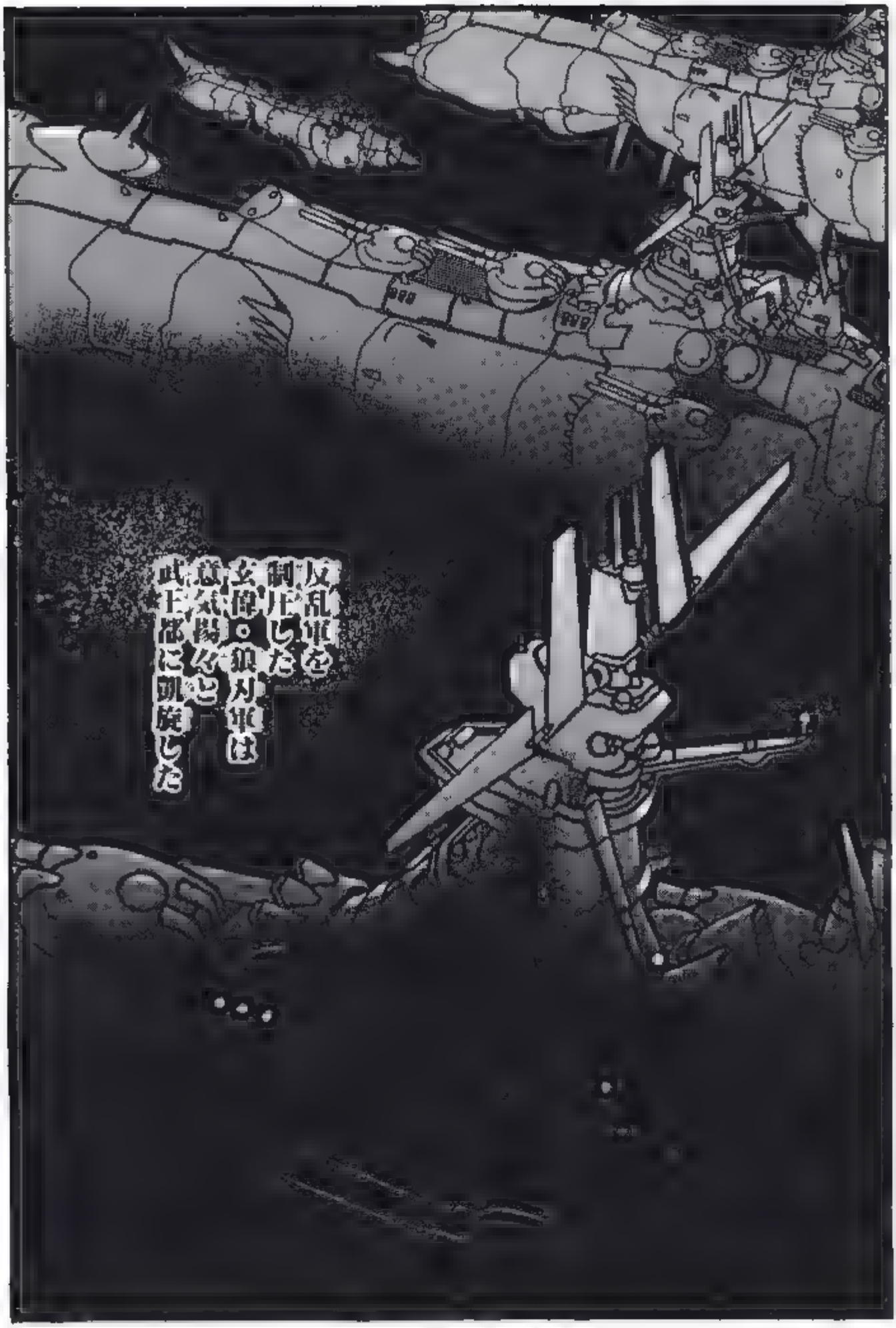
麗羅様
全て片づき
ました
御苦労！
死体は
運んどいてな
いただ
なんや
生きとったん
かいな
麗羅！
ふん！

あなたが助けてくれたのね！
まあそーいうことになるわな
ありがとう何てお礼をいったらいいのか
な何をするの!?
何いうてんねん白々しい！
おらっ紫紋に縄をかけいっ!!

し…しかし
誤解よ！
わたし 好きで
彼らと一緒に
いたんじゃないわ!!
うちの命令が
聞けんのか!?
早よ縛れ！
早ようう!!
あ…
だめっ!!
麗羅!!
くすくす


首謀者も
捕えたことやし
引き揚げるで!!

ひ 姫様
そんな
きゃ――っ！
とーしたらいいの〃
とーしたらいいの〃
ブリブリ
ブリブリ
大変なことに
なっちゃった〃


反乱軍を
制圧した
玄偉〇狼刃軍は
意気揚々と
武王都に凱旋した

このたびの戦勝に狼刃将軍より直々に酒を賜わった
好きなだけやってくれ！
ドリチャリ
ドリチャリ
わはははやるなといってもやってやらあ
女はいねえのか女はーっ!?
歌え！歌え!!
ひゃはははは
ほら雲海もっと飲めよ～～～
相変わらず酒グセ悪いなおまえは
あれ――雷の兄きはー?

あいつなら
ほうび持って
姫さんところに
行ったぜ
えーっ!!
な——
雲海
最近兄きったら
俺達と
付き合い悪く
ない?
冷たいよ
なー
わっはは!
おまえも女が
できたら
わかるぞ!!
いたいって
何すんだよーっ!!
お——い
姫さん
いるか——っ?
ガラッ
将軍から
ゴチャゴチャ
恩賞もらった
けど
俺酒以外
いらねーから
好きに使ってくれ
置いてくぜ
ん?

!!
これは…!!
!!!!!!
!!!!!!

姫様〜〜〜
おい起きろチビ助！おいったら!!
一体何があったんだよ!!
あ：雷様・
ううっ・
ああああ
おおい泣いてちゃわかんねえよどーしたってんだこりゃ!?
姫様が姫様がーっ!!
姫様が麗羅様に捕まっちゃったの！
その後家ん中引っかき回されたのーっ!!

ん？
よくないのう
凶と出おった
わい。
あの二人
まだ殺すには
惜しい
どれ
出かけて
くるか…。
トントン
チビ助！
こいつを
狼刃将軍に
渡してくれ！
それと
このことは
絶対他の奴に
知らせるな！
う・
うん・！

雷様 姫様を助けてね
まったく世話のかかる姫さんだぜ！

おおっ
これは
これは
竜我殿では
ないか！
いや
このたびの
貴殿の
斉王都での戦い
お見事でしたぞ
どうですかな
我々と一杯！
貴殿のような
豪傑と一度
酒をくみかわしたい
どいてくれ!!
どけよ！
バカヤロウ!!
お おい
奥へ入っては
ならん!!
そっちは！
!?
ドドドドド!!

止まれ……
くっ
な、なんだ、この強靭な男は!!
ええいっ 前へ入れてはならん!!
とおっ!!

狼刃将軍！
先程竜我殿の使いだという童女がこの手紙を雷から？
あいつめ一体何を
思い知らせだ
俺は師団長 雷

おらあ!!!
う…!!
な…なんだこりゃ!?

アヘンか…!!
な――んや
雪やないか
どないしたんや
血相変えて――

ま大体の見当はついとるけどなー
姫さんをどーした!
姫さん姫さんってうちかて姫やで——♡
どや一本吸わへん?
こいつはただのアヘンやないで極上もんやええ気持ちになるでー
この連中どっかやれよ!うっとうしいだろが!!
俺はあんたと話しにきたんだぞ!!
ちゅうことやうちら二人でええことするさかい出とき!
はい姫様ごゆっくり
どやみーんなええ男やろ
うちはええ男はべらすんが好きやねん♡
話の続きだ!姫さんをどーしたんだ!?

あんな女のことなんか忘れた方がええでとーせ反逆罪で打ち首や
反逆罪だと？何かの間違いだろ！
あいつは唯一人の皇族やで帝政復活の反乱に加わらん方がおかしいやんか
それに動かせん証拠があるんやで
証拠だと？どこにある〃
それがあるんやそれが！
これ見てみい！先帝の密詔やで〃父上を討てって書いとるんや〃
これが紫紋の所にあったんや〃
ほーらここ読んでみ！
むずかしかったらうちが読んだるさかい

ビッビッ
何するんや
このアホ!!
反逆者を
かばう気か!?
ゴゴゴ
服を
着ろ!!
姫さんところに
案内しろ!!
あいたたた!!
雷!
あんた うちに
こんなことして
ええと思っとるんか!!
うちに逆らったら
ただじゃ
すまんて!!

いいかげんに吐いちゃいなよお嬢さん
まーだ痛い目に会いたいの？
あたし本当に知らないの！
密詔は人から受け取っただけ聞りはないわ!!
おやおやかわいい顔して強情だね

そうよ
どーせ
首切られるん
だもん
やろうよ同輩！
ふふ 瑞穂
あんたが
その気なら
あたしも
かまわないわよ
へっへ——
あたし こーいう
お高くとまってる
お姫様は
きらいだもん
!!
後悔しても
遅いよ!!
雷…
助けて…
!!

雷!!
れ…
麗羅様(らさま)!?
なんだ
おまえは!?

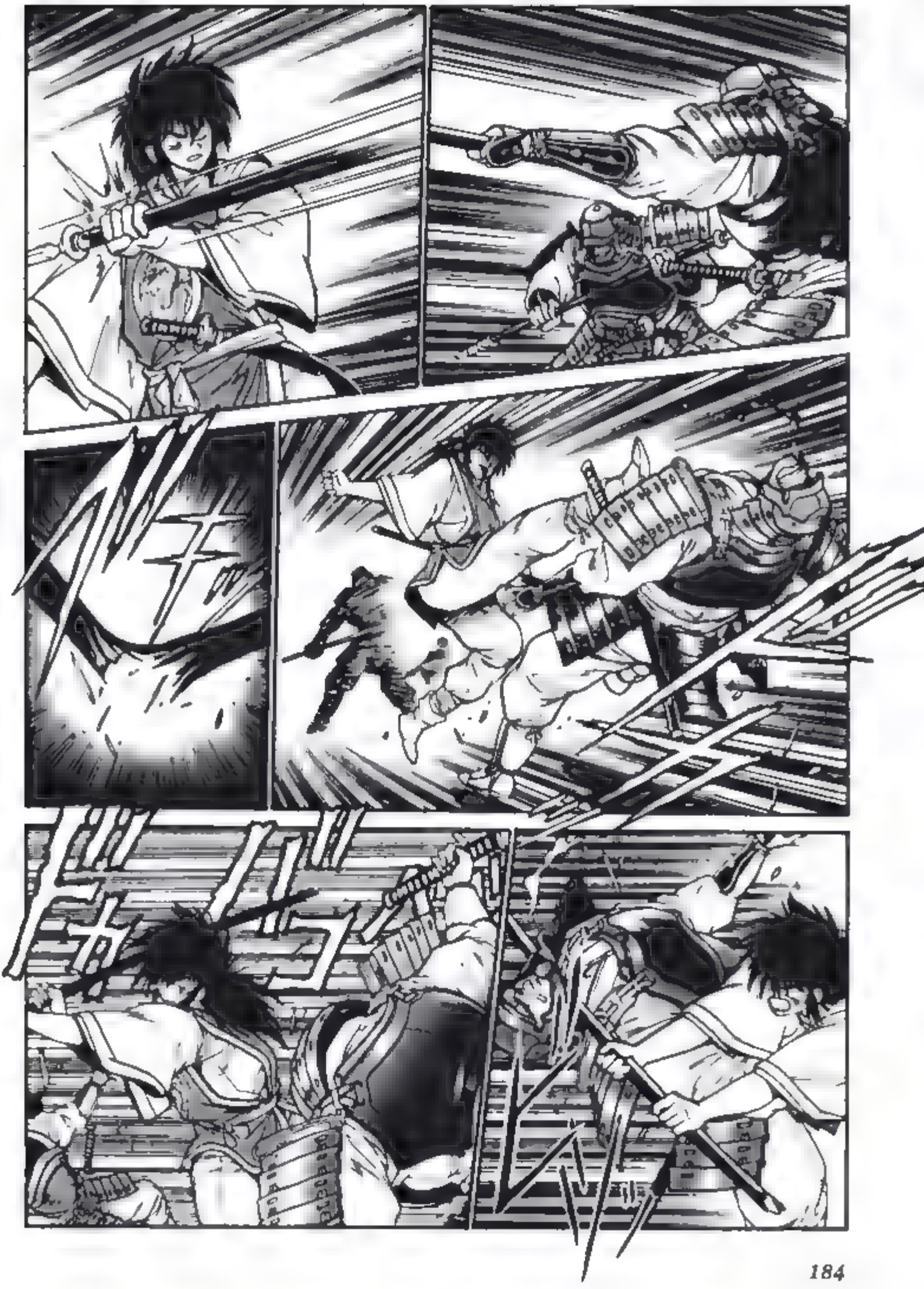
彼女を降ろせ…!!
はい～
命だけはお助けを!!
大丈夫かよ姫さんケガはねえか?
ありがとう!!
カラガラ
ドロッ

ま…待たんかい！
そいつは罪人やぞ
助けたりしたら
雷！　おまえも
同罪やで!!
打ち首やで!!
そーかよ!!
な
なんやねん…！
こ、
怖かないで!!
姫さんは
返してもらうぞ！

ぎっ!
これ
観音様!
雷の奴~~~!
かわいさ余って
憎さ百倍や〃
このまま
無事には
帰さんて…〃
あ
あ
あ〃

こっちだ!!
何してんのや!
逃がすんやないで
殺ってまえ!!
射殺してしまえ!!
うおっ!!
フフフ
楽しく
殺したるで!

きゃあっ
!!
雷のバカが
早まったことを!!
これ以上
騒動を起こすと
もう かばい
きれんぞ!
遅かった
か……!!
キミキ
あ~~っ
もう知らん!!



こらーっ
さっさと降参せーっ!!
ほんまに殺すでーっ!!
うるせえっ!!
だれが!!
姫さん
離れるなよ!!

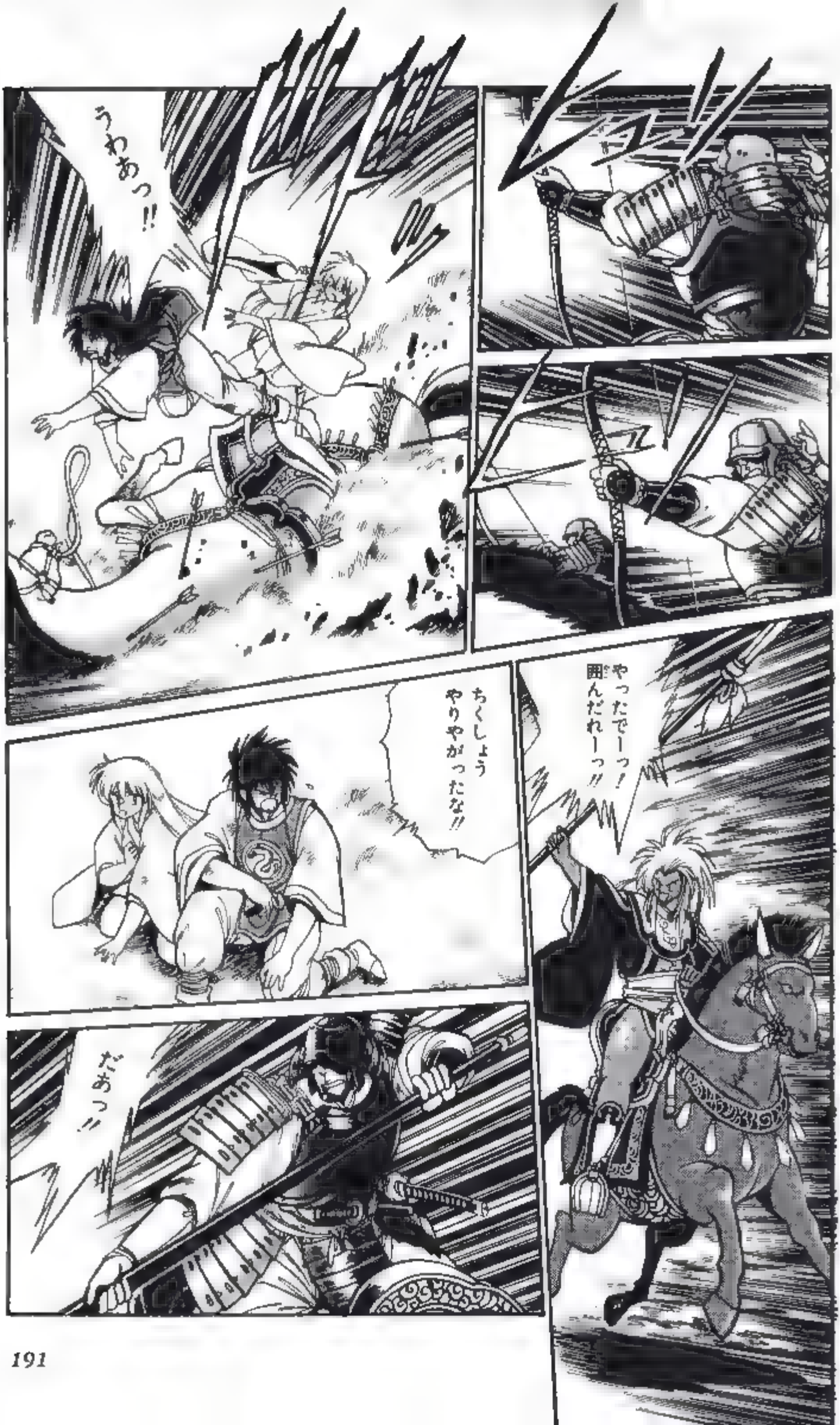
ったく
あいつはなんで
いつも自分の功績を
帳消しにする
ことをするんだ
あたしゃ
頭痛いよ…！
あの男を
助けたい
ですか？
将軍
華玉！
あの紫紋姫は
麗羅様が
反乱軍の首謀者として
捕らえてきた
そうです
その姫君を
助けたとあっては
竜我も反逆罪に
問われましょう
今なら
玄偉様を通して
殿に一言申し上げ
不問とすることも
できますが
いや
あいつは
あたしの部下
構わんで
もらおう！
それに
紫紋姫が
反乱軍と通じてたとは
まだいえまい？
確かに
麗羅様は
気まぐれなお方
三日たてば
忘れるでしょう
しかし
あの方は
どうでしょうか!?
なんだ
この騒ぎは!?
酒が入っている
とはいえ
限度を
超えてるぞ!!

曹羅様！
これは一体
何事ですか!?
鳳鳴
手ぇ貸せえ！
こいつら反逆者や!!
なんと
まことで
ございますか!?
すぐに兵出して
門を固めるんや!!
二人を外に
出したらアカン!!
どけえっ!!
わーっ
囲みを
破られたぞ
追え追え
――っ!!
うちの馬を
出せや!!
早う!!
逃がしては
ならんぞ!!
ドドドド!!

くそっ！
あの男に
呪まれたら
おしまいですよ
やはりここは
玄偉様の
口添えが
必要だと
思います
……
何か魂胆が
あるんだろ
言ってみな！
雷は
どないしたん
や!!
申しわけありません
突破されました
アホーっ!!
追うんや!!
何がなんでも
追いついて
討ち取れーっ!!
何かうるさいなー
酒がまずくならあー
そこまで
飲んでて
何ぬかす！

ありがとう
助けてくれて！
え――っ
なんだって!?
よく聞こえ
なかったけど
礼なら
いいぜ！
俺は人助け
なんて趣味は
ねえし
預かり物に
傷つけたく
なかっただけだ！

相変わらず口は悪いのね！
え――？
なんでもないよ
おいっ 何さっきから後ろでしゃべってんだ！しっかりつかまっとけよ!!
きたかくそっ!!
ドドド


うわあっ!!
やったでーっ!
囲んだれーっ!!
ちくしょう
やりやがったな!!
だあっ!!

うわあっ
何してんのや
たった一人やで!!
紫紋の方を
狙うんや
弓を
射かけいっ!
待ていっ!!
雷!!

兵を引けいっ!!
カッ
カッ
玄俥将軍!?
なんや玄俥
おまえの出る幕や
ないわい!
向こう行け!!
姫様!
これは上意で
ございます!
なんやてーっ!!
こいつら
反逆者やで
うちが成敗して
何があかんのや!!
父上は
関係ないわい!
それは
殿に直接
申して
下され!
竜我は
わたしが
引き取り
ます!
アカン!
そうはいく
かいな!!

上意ですぞ！
お父上に逆らう
おつもりですか!!!
う…！
あ――
わかったわ！
父上に直接
問いただしたる
わい！
覚えとれ
よ！
雷の
ウンコタレーっ!!
竜我よ！
くるか!?

紫紋姫が
反逆者か
どうかは
ともかく
闘羅様に
手を上げたことは
重罪だぞ！
いくらおまえが
軍を抜けても
他の者に迷惑が
かかろう
……
わかったよ
好きにしな！
雷！
心配すんなって
姫さん
紫紋殿
あなたの身柄も
この玄偉が
引き受けましょう
どうぞ
城におもどり
ください
いやいや
それには
およばんよ

姫はこのわしが引き受けよう
よかろう？玄偉
老師！それは困りますないくら老師とはいえそのような勝手なことをされては国法が成り立ちませんぞ
おぬしのためじゃぞ玄偉よ
このような美しい娘おまえの側に置いたら掌玉が焼きもち焼いて大変じゃぞ
いい尻じゃ
きゃ
……
わかりましたあなたなら心配いりますまいおまかせしましょう
殿にはわたしから申しあげます
行くぞ！

待って!!
雪
あたしのせいで
こんなことに
なってしまって…
許して下さい…
もういいから
忘れて
笑ってろよ
泣くと
ブスになるぞ!

お帰りなさいまし
華玉
しかし狼刃将軍の方はうまくいきました後日力を借してくれましょう
そうかよくやったぞ
ごらん下さいあの主星を
まもなく
そうでございますか老師様ならあたしの策などたやすく見抜くでしょう
おぬしの考え李張道師に見抜かれておったぞ

なんでやねん!?
ビリビリビリ
紫紋はホンマに反逆者なんやでー
反逆罪は死刑やと決まってるやないかい!!
姫様お言葉がすぎますぞ!
やっかましい!だまっとらんかい!!
うちの言うことが間違ってるゆうんか!!
麗羅!紫紋姫の処分については重臣一同衆議の上決まったことだ
口をはさむではない!

それに
おまえは
紫紋姫を
勝手に裁こうと
したそうだな！
それは
この五丈の国法をも
破ることになるぞ！
それの
どこが
悪いんや!!
そんな細かいこと
こだわっとれる
かいな！
うちは自分の
好きなように
やるわい！
放っといてんか!!
バカモノ!!
政治を知らぬ
者は
だまっておれ!!
う…
！

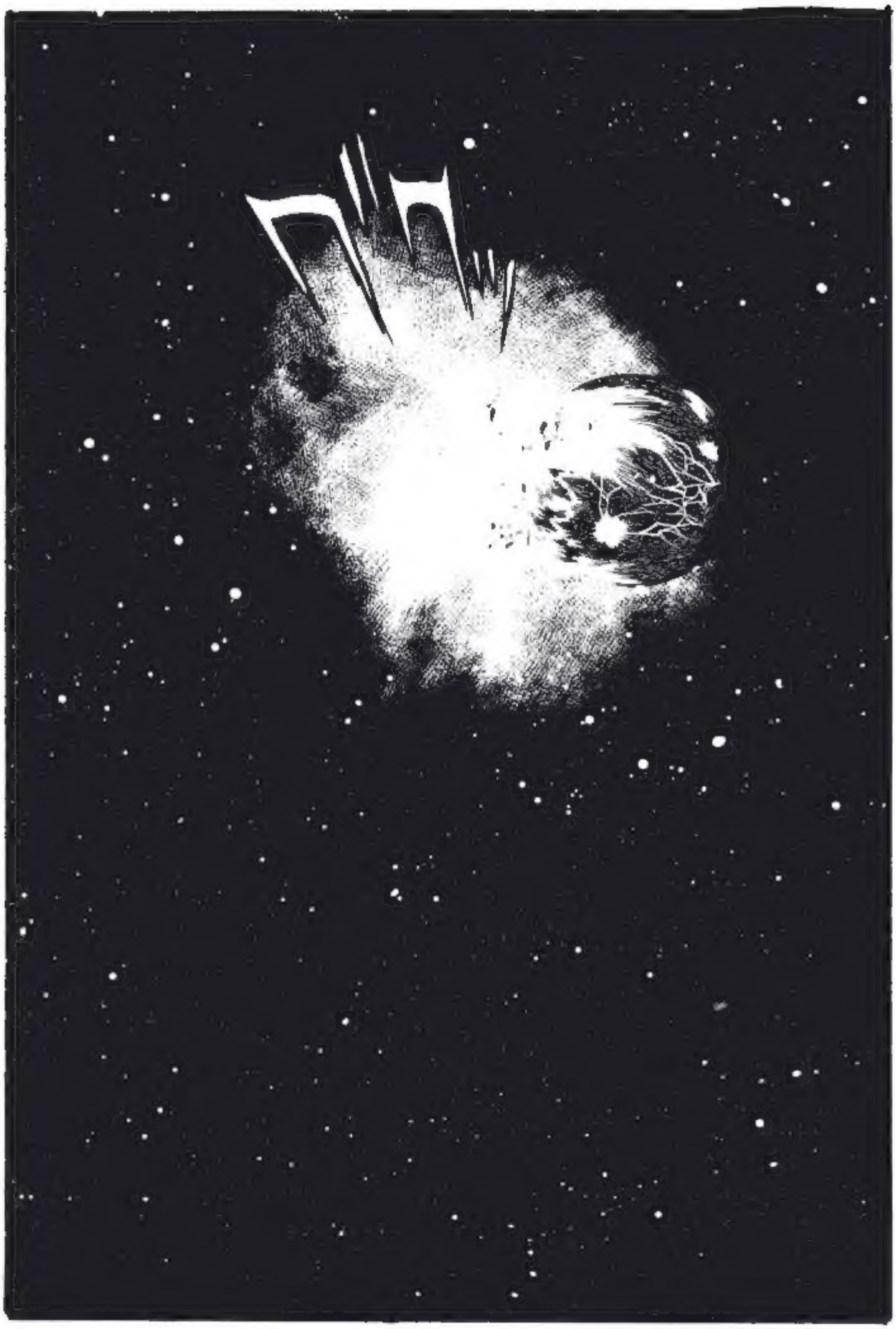
と、殿 いかがなされました!!
いや また 例のだ 大したことは
ぐぐっ!!
殿!!
殿!!
早く 医者を 急げ!!

おう
どうでござる
殿の御容態は？
重いのか!?
御病気が
かなり
進んでおられます
!!
なにっ!!
そんな
とにかく
安静に…
起ることなど
もってのほか
です
だが
比紀弁正は
それから
一度と起き上がれ
なかった

国境最前線
陂羅軍本営
けっ
最近ちっとも
おもしろくないぜ
何がて
ございますか
兄上
都では
玄偉が反乱軍を
叩きつぶして
いい気になっているのに
この俺は
来もしねえ南天軍の
ために
こんなところに
張りつけられて
やがる
考えてもみろ!
この俺が今まで
いい目をみたことが
あったか?
殿は
玄偉や
狼刃を重用して
この俺は
いつも損な
役回りだ!
狼刃は
ともかく
玄偉はよそ者
だぞ!
ちょっとばかし
頭が切れるからって
でかい顔しやがって
いまいましい!
ガリ

他の連中も
連中だ！
この前の戦で
みんな
憶病風に
吹かれちまった！
俺がたびたび
南天進攻を
願いでておるのに
一向に受けつけん！
こんなところに
いつまで
この俺を
置いとくつもりだ！
こんな片田舎じゃ
酒も女も
ろくなのが
ねえ!!
ならば
おもしろくする
手だてが
ありますぞ
ほう
言ってみろ！
聞くところに
よりますと
練国の羅候は
正宗の弟の
守り役を
やっておるそうで
事実上の
監禁状態だ
そうです
しかし
わたしの知る
ところでは
あの男
いつまでも
そんな状態に
がまんできる性格
ではございません
ふ――ん
短気なのか？

どうでしょう
羅候に密使を送り
我が軍の後盾で
南天軍の中で
反乱を
起こさせる
首尾良く
正宗の首を
あげれば
よし！
また
発覚して
我々の仕業とばれ
南天軍が攻めてくれば
さらによし
そうなれば
重臣達の
出兵の許可が
なくとも
兵を動かせます
あとは将軍の
ご武勇次第…
ふふふ
なるほど
おもしろそうだな…
やるか!?



Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ④

1993年11月5日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　角川歴彦

発行所　株式会社メディアワークス　〒101　東京都千代田区神田神保町2-22-11　カンナビル　電話03-5276-2433(編集)

発売元　株式会社主婦の友社　〒101　東京都千代田区神田駿河台2-9　電話03-3294-1137(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　大日本印刷株式会社

©JOJI MANABE 1993

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3269-5784)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊コミックコンプ '91年3月号－7月号(角川書店刊)
この本は '92年3月に角川書店から刊行されました。

ISBN4-07-300417-4 C0379